

年 報 9

平成 4 年 度

1993. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 9

平成 4 年 度

1993. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されてから、今年度で11年目を迎え、この間、当センターが発掘調査を行ってきました遺跡数は100件を越え、刊行した報告書も80冊以上を数えております。これらの内容は旧石器時代から中・近世に至るまで幅広く、出土する遺物も多岐にわたっております。続々と発見される新たな事実によって、考古学は本県においてもますます身近なものになってまいりました。また、本県の歴史を広く理解していただくため、年2回の遺跡調査発表会や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出しなど、広く啓蒙普及活動を行い、内容も年々充実したものとなってきております。

本書は、1992年度に当埋蔵文化財センターが行った発掘調査および試掘・分布調査の概要と遺跡調査発表会等の事業概要を報告するものであります。今年度は18遺跡の発掘調査と5事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、縄文時代では、中期の大集落址の大泉村の甲ッ原遺跡、後期の弧形をした注口土器が出土した高根町の川又坂上遺跡、同じく後期の配石遺構をもつ境川村の水口遺跡などの調査が挙げられます。中道町の菖蒲池遺跡では、弥生時代中期の土坑群が検出され、出土した土器とともにその機能・性格の解明が待たれます。隣接する米倉山B遺跡では、これまで東日本ではほとんどみられなかった、弥生時代後期の、中国の新(A.D.8～23)の貨幣である貨泉が出土し注目を集めました。古墳時代では、中道町の東山北遺跡で県内では最大クラスの方形周溝墓が発見されました。さらに若草町の二本柳遺跡では、中世の木棺墓が検出され、これは全国的にも珍しく、中世の信仰や葬送儀礼を解明する貴重な資料となるでしょう。また近年、水田跡の調査も増えており、甲西町の向河原遺跡で弥生時代中期の水田跡が発見されました。甲府城跡の調査、古代官衙・寺院址詳細分布調査も3年目に入り、中でも八代町の瑜伽寺で奈良時代の軒平瓦が出土するなど、大きな成果を上げております。この他、県内の市町村が実施いたしました発掘調査においても、興味深い遺構や遺物が発見されております。

ここ数年、県内では毎年100件前後の発掘調査が行われ、県内の開発事業は、依然として止まるところを知りません。甲西バイパス建設に伴う調査は4年を経過し、またリニアモーターカー山梨新実験線建設に伴う調査も2年目に入り、今後も大規模開発は増え続けていくものと思われまます。一方では、先人が残した貴重な埋蔵文化財の保護と、増え続ける開発とをどのように調和させるかが、大きな課題となってきております。現代社会の情勢を的確に把握し、将来を展望するためにも、これらの遺跡を保護し、活用していくことが重要であると確信いたしております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、埋蔵文化財の保護・保存をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願いいたします。

1993年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

目 次

I 1992年度の事業概要

1	発掘調査	1
2	整理事業	1
3	発掘調査報告書	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	2
5	遺跡調査発表会	5
6	「山梨の遺跡展」の開催	6
7	市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会	6
8	埋蔵文化財センター10年のあゆみ	7

II 各遺跡の発掘調査概要

1	甲ッ原遺跡	10
2	唐松遺跡	12
3	川又坂上遺跡	14
4	水口遺跡	16
5	揚久保遺跡	18
6	菖蒲池遺跡	20
7	向河原遺跡	22
8	音羽遺跡	24
9	米倉山B遺跡	26
10	東山北遺跡	28
11	榎田遺跡	30
12	油田遺跡	32
13	新居道下遺跡	34
14	桑戸（後町）遺跡	36
15	中川田遺跡	37
16	二本柳遺跡	38
17	甲府城跡（県指定史跡）	40
18	古代官衙・寺院址詳細分布調査	44
19	リニアモーターカー山梨新実験線建設に伴う試掘調査	46
20	八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査	48

III 県内の概況

1	調査の件数と状況	51
	1992年度発掘調査一覧	53

例 言

1. 本書は、1992年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集から刊行までの作業は、年報編集担当今福利恵、小林健二が行った。
3. 今年度の発掘調査一覧および資料の記載は3月末日現在で集計したものである。
4. 第Ⅱ章の発掘調査概要の発掘調査面積の（ ）内は調査対象面積である。

職 員 組 織

所 長 磯 貝 正 義
次 長 長谷川 裕 彦
総務課 課長 長谷川 裕 彦
調査研究課 課長 森 和 敏

総務課

総 務 担 当
副 主 査 千 葉 善 和
主 任 佐々木 小百合
主 事 土 屋 久 明
業 務 員 久保川 一 三
業 務 員 小岩井 昇
業 務 員 有 泉 百合恵

調査研究課

県道・公園調査担当
主 査・文化財主事 末 木 健
主 査・文化財主事 小 林 広 和
副主査・文化財主事 八 巻 興志夫
文 化 財 主 事 山 本 茂 樹
文 化 財 主 事 五 味 信 吾
文 化 財 主 事 村 松 利恵子
文 化 財 主 事 今 福 利 恵
文 化 財 主 事 田 口 明 子
文 化 財 主 事 野 代 幸 和

中部横断道・広域農道調査担当

主 査・文化財主事 新 津 健
副主査・文化財主事 米 田 明 訓
副主査・文化財主事 出 月 洋 文
主任・文化財主事 中 山 誠 二
主任・文化財主事 澤 登 正 仁
文 化 財 主 事 松 土 一 志
文 化 財 主 事 三田村 美 彦
文 化 財 主 事 保 坂 和 博
文 化 財 主 事 小 林 健 二

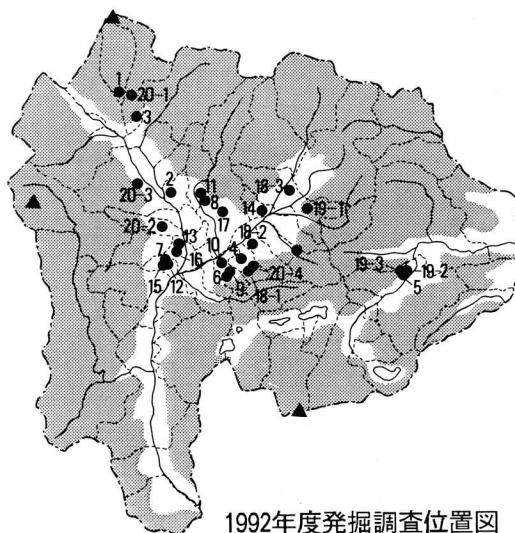
リニア・テクノ調査担当

主 査・文化財主事 坂 本 美 夫
副主査・文化財主事 一 瀬 新一郎
主任・文化財主事 保 坂 康 夫
主任・文化財主事 橘 田 重 男
文 化 財 主 事 平 山 優
文 化 財 主 事 高 野 玄 明
文 化 財 主 事 吉 岡 弘 樹
文 化 財 主 事 早 川 典 孝
文 化 財 主 事 森 原 明 廣
文 化 財 主 事 高 橋 みゆき

I 1992年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は18遺跡の発掘調査と5事業にかかわる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設13、公園整備2、学術調査1、リニア建設2、建物建設5となる。調査は4月下旬から3月中旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることとする。



番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	甲ッ原遺跡	14	桑戸（後町）遺跡
2	唐松遺跡	15	中川田遺跡
3	川又坂上遺跡	16	二本柳遺跡
4	水口遺跡	17	甲府城跡（県指定史跡）
5	揚久保遺跡	18-①	古代官衙・寺院址詳細分布調査（温湯遺跡）
6	菖蒲池遺跡	18-②	（瑜伽寺）
7	向河原遺跡	18-③	（七日子廃寺）
8	音羽遺跡	19	リニアモーターカー山梨新実験線建設に伴う試掘調査
9	米倉山B遺跡	20-(1)	八ヶ岳広域農道試掘調査
10	東山北遺跡	20-(2)	今諏訪・北村線試掘調査
11	榎田遺跡	20-(3)	旭バイパス試掘調査
12	油田遺跡	20-(4)	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道試掘調査
13	新居道下遺跡		

※番号は第II章の遺跡名他に記す番号と合致する。

2. 整理事業

今年度は下記の整理を行った。

No.	遺跡名	発掘年度	事業名
1	甲ッ原遺跡	1992	一般県道須玉八ヶ岳公園線建設
2	唐松遺跡	1992	唐松団地建設
3	川又坂上遺跡	1992	八ヶ岳広域農道建設

No.	遺 跡 名	発掘年度	事 業 名
4	水口遺跡	1992	一般県道鶯宿中道線建設
5	揚久保遺跡	1992	リニアモーターカー山梨新実験線建設
6	菖蒲池遺跡	1992	米倉山ニュータウン整備
7	向河原遺跡	1992	一般国道52号（甲西バイパス）建設
8	音羽遺跡	1992	県職員宿舍建替事業
9	米倉山B遺跡	1992	米倉山ニュータウン整備
10	東山北遺跡	1990～1992	甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備
11	榎田遺跡	1992	ツリータウン千塚団地建設
12	油田遺跡	1992	一般国道52号（甲西バイパス）建設
13	新居道下遺跡	1991～1992	一般国道52号（甲西バイパス）建設
14	桑戸（後町）遺跡	1992	一般県道下神内川石和停車場線改良
15	中川田遺跡	1992	一般国道52号（甲西バイパス）建設
16	二本柳遺跡	1991～1992	一般国道52号（甲西バイパス）建設
17	甲府城跡（県指定史跡）	1992	舞鶴城公園再整備
18	古代官衙・寺院址詳細分布調査	1992	古代官衙・寺院址詳細分布調査
19	リニアモーターカー山梨新実験線建設試掘調査	1992	リニアモーターカー山梨新実験線建設
20	八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査	1992	八ヶ岳広域農道などの遺跡確認調査
21	東山南（A）遺跡	1980	甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備
22	天神遺跡	1982	県営圃場整備
23	宿尻遺跡	1991	一般県道穴山停車場線拡幅
24	平野遺跡	1991	林業技術センター建設
25	長田口遺跡	1989～1991	富士川西部広域農道建設

3. 発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No.	報 告 書 名	No.	報 告 書 名
第75集	川又坂上遺跡	第81集	宿尻遺跡
第76集	東山南（A）遺跡	第82集	長田口遺跡
第77集	中川田遺跡	第83集	甲ッ原遺跡概報Ⅱ
第78集	平野遺跡	第84集	山梨県指定史跡甲府城跡Ⅲ
第79集	東山北遺跡	第85集	八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査報告書
第80集	桑戸（後町）遺跡		

4. 収蔵資料の貸し出し及び記載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

No.	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
1	6.5～6.6	青木北遺跡出土墨書土器一括 寺所遺跡出土墨書土器一括	県史編さん古代部会	文字資料調査のため
2	7.14～9.19	一の沢遺跡出土深鉢形土器6点 " 裝飾把手2点 安道寺遺跡出土獣面把手付土器1点 " 有孔鏝付土器1点 " 深鉢形土器2点 甲ッ原遺跡出土深鉢形土器3点 上野原遺跡出土深鉢形土器2点 重郎原遺跡出土深鉢形土器1点 西田遺跡出土深鉢形土器1点	安城市歴史博物館	「土のキャンパス」展に展示のため
3	7.16～8.21	笠木地藏遺跡出土石器2点 " 土器10点 " 磁器1点 " 写真2点 北堀遺跡出土土偶1点 " 風字硯1点 岩崎氏館跡出土陶器2点 " 土器4点 大積寺跡出土瓦3点 " 土器3点 豆塚遺跡出土土器1点 立石遺跡出土石器写真1点 四ッ塚古墳群写真2点	釈迦堂遺跡博物館	「古代への誘いー発掘が語る勝沼・一宮の歴史」展に展示のため
4	8.21～8.22	大豆生田遺跡ほか出土墨書土器一括	県史編さん古代部会	文字資料調査のため
5	9.8～10.31	重郎原遺跡出土土器22点	塩山市教育委員会	「塩山のあけぼの」展に展示のため
6	9.26～11.26	天神遺跡出土硬玉製大珠1点	埼玉県立博物館	「石器時代の宝石」展に展示のため
7	9.26～11.20	中込遺跡出土土器4点 外ガイド遺跡出土土器11点 " 写真1点 上野原遺跡出土土器2点 獅子之前遺跡出土土器6点 " 土偶5点 " 獣面把手3点 " 写真1点 花鳥山遺跡出土土器10点 " 人形状土製品13点 " 耳飾3点 " 炭化物付着土器片2点 " オニグルミ1点 天神遺跡出土土器3点 " 土偶1点 " 耳飾6点 丘の公園14番ホール遺跡出土石器6点 丘の公園第5遺跡出土土器2点	釈迦堂遺跡博物館	「縄文世界の形成」展に展示のため
8	10.1～12.15	金生遺跡出土中空土偶1点 " 石棒1点	島田市博物館	「縄文あけぼの」展に展示のため
9	11.14～11.20	北堀遺跡出土土器8点 二の宮遺跡出土土器17点 桜井畑遺跡出土土器5点 寺所遺跡出土土器25点	山梨県考古学協会	研究集会「甲斐型土器」に展示のため
10	12.21～3.31	重郎原遺跡出土縄文土器31点	塩山市教育委員会	塩山市史編さん作業（実測）のため
11	1.2～2.1	銚子塚古墳出土木製品5点 " 復元写真1点 姥塚3号墳出土鳥形土製品1点 北堀遺跡出土和鏡1点 二ッ塚1号墳出土和鏡1点 笠木地藏遺跡出土鳩笛2点	釈迦堂遺跡博物館	「考古学から見たトリ」展に展示のため

今年度は以下の掲載許可申請があり、許可した。

No.	日付	申請物件名	申請者	利用目的
1	6.25	金生遺跡配石遺構全景1点	(株)小学館	文庫版「大系日本の歴史」第1巻に再掲載
2	6.25	一の沢遺跡出土深鉢形土器6点 “ 裝飾把手 2点 安道寺遺跡出土獣面把手付土器1点 “ 有孔鏝付土器1点 “ 深鉢形土器2点 甲ッ原遺跡出土深鉢形土器3点 上野原遺跡出土深鉢形土器2点 重郎原遺跡出土深鉢形土器1点 西田遺跡出土深鉢形土器1点	安城市歴史博物館	展示図録「土のキャンパス」に掲載
3	6.30	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	(株)グディーズ・ホーム	「明示健康ファミリー」8月号に掲載
4	7.10	二本柳遺跡調査関連図版・写真7点	(株)ジャパン通信社	「月刊文化財発掘出土情報」9月号に掲載
5	7.17	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	(株)大和書房	「日本古代史事典」表紙カバーに掲載
6	8.26	天神遺跡出土硬玉製大珠1点	埼玉県立博物館	「石器時代の宝石」解説に掲載
7	8.28	安道寺遺跡出土有孔鏝付土器1点	(株)グラフィック社	「インダストリアルデザインのすべて」に記載
8	9.8	二の宮遺跡出土須恵器甕1点	(株)新潮社メディア室	「CD-ROM版世界美術辞典」に再掲載
9	9.22	中込遺跡出土土器4点 “ 調査風景写真1点 外ガイド遺跡出土土器11点 “ 石組炉写真1点 上野原遺跡出土土器2点 獅子之前遺跡出土土器6点 “ 土偶5点 “ 獣面把手3点 花鳥山遺跡出土土器10点 “ 耳飾3点 “ 炭化物付着土器片2点 天神遺跡出土土器3点 “ 土偶1点 “ 耳飾6点 丘の公園14番ホール遺跡出土石器6点 丘の公園第5遺跡出土土器2点	釈迦堂遺跡博物館	展示図録「縄文世界の形成」に掲載
10	10.1	金生遺跡出土中空土偶1点 “ 石棒 1点 “ 土偶・石棒出土状況写真	島田市博物館	展示図録「縄文あけぼの」に掲載
11	11.10	米倉山B遺跡出土「貸泉」1点	朝日新聞社	「アサヒグラフ」12月25日号に掲載
12	12.10	金生遺跡発掘調査風景写真1点	日本書籍(株)	高等学校教科書「日本史」に掲載
13	1.21	中原遺跡出土石器 2点	(株)角川書店	角川選書「日本女性の歴史」に掲載
14	2.9	丘の公園14番ホール遺跡出土石器1点 宮の前遺跡出土深鉢形土器1点 釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点 金生遺跡配石遺構全景写真1点 身洗沢遺跡木製鎌出土状況写真1点 金の尾遺跡発掘風景写真1点 二の宮遺跡出土須恵器甕1点 小平沢古墳出土斜縁二神二獣鏡1点	芦安村長	「芦安村誌」に掲載
15	2.17	二本柳遺跡調査関連図版・写真13点	(株)名著出版	「中世社会と墳墓」に掲載

5. 遺跡調査発表会

当埋蔵文化財センターでは、県内で発掘された遺跡のうち、主なものについて、山梨県考古学協会と共催で毎年2回の遺跡調査発表会を実施している。今年度は以下の9遺跡について行った。また下半期の発表では、本年度の県内埋蔵文化財の調査と保護について、県教育委員会学術文化課から報告が行われている。以下これらの遺跡を取り上げ、その概要を述べていきたい。

◎ 1992年度上半期遺跡調査発表会概要（10月3日 於山梨県教育会館）

1. 古林第4遺跡 北巨摩郡大泉村西井出

縄文時代中期中葉を中心に中期後葉、中世～近世の複合遺跡である。検出された遺構は住居址20軒、井戸跡1基、溝状遺構10条、土壌200基である（3月末日現在）。遺物については、縄文時代中期中葉の土器が質量とも豊富であり、特殊なものとしては、ヒスイ製の笛が出土している。

2. 曲田遺跡 東山梨郡牧丘町倉科字膳棚

縄文時代前期、古墳時代前期、平安時代末期の複合遺跡で、住居址23軒、土壌16基などが検出された。出土遺物の中では小型壺など古墳時代前期の祭祀に関連したものが注目される。

3. 宮ノ前第3遺跡 韮崎市藤井町駒井字宮ノ前

平安時代の住居址6軒、掘立柱建物址1棟が発見され、土師器・須恵器の杯や皿・甕、鉄製品などが出土している。住居址の中には一辺約8mの大型のものが存在する。

4. 二本柳遺跡（農道部分） 中巨摩郡若草町加賀美字山宮地

本遺跡は近在する法善寺の子院であった「福寿院」跡の調査で、戦国時代を中心とした溝、井戸跡、方形区画遺構などが発見され、多くのかわらけや内耳土器、漆碗、陶磁器などが出土している。また卒塔婆や五輪塔のような、寺に関する遺物もみられた。

◎ 1992年度下半期遺跡調査発表会概要（3月7日 於若草町総合会館）

「甲西バイパスの遺跡と県内の水田遺構」をテーマに、近年県内で増加している水田遺構を取り上げ、当センターの中山誠二文化財主事による県内水田遺構の総括の後、各遺跡の発表が行われた。また会場には展示コーナーを設け、当センターで発掘調査された遺跡からの出土遺物・写真などが紹介された。

5. 向河原遺跡 22頁参照

6. 中尾条里遺跡 東八代郡一宮町北都塚字亀沢

弥生時代後期の水田跡、小河道1条、溝状遺構2条が発見された。特に水田跡は、南から北に段々畑状に造られた「極小区画水田」であり、良好な状態で検出された。水田面には足跡状のものや稲株状のものも認められた。

7. 朝気遺跡 甲府市朝気

平安時代の水田跡が発見され、水田面からは甲斐型土器編年XI～XII期の土器片が出土している。

8. 二又遺跡 甲府市住吉

本遺跡からは、古墳時代初頭の水田跡、溝が発見された。水田跡は不定形小区画水田と考えられる。溝からはパレススタイル壺を含む多量の土器が出土している。

9. 二本柳遺跡（甲西バイパス） 38頁参照

6. 「山梨の遺跡展」の開催

例年、県立考古博物館との共催事業として年度末に実施している。年度内に行われた発掘調査の成果について、速報的に展示公開するもので、この公開を通し、地下に埋もれていた山梨の歴史の一端を多くの県民に紹介するとともに、埋蔵文化財センターの事業への理解を高めていくことをねらいとしている。

展示は、考古博物館特別展示室を会場に、遺跡ごとにその出土品や調査状況の写真などで構成されている。今年度は1993年3月27日（土）から来年度の4月18日（日）までの会期で、甲ッ原遺跡（4年次）・水口遺跡・川又坂上遺跡・菖蒲池遺跡・米倉山B遺跡（2年次）・東山北遺跡・榎田遺跡・油田遺跡の8遺跡を取り上げ、紹介している。

なおこの事業は今年度で5回目となるが、参考までに過去の実績をあげると、第1回は1989年の3月14日～4月2日の会期で、立石遺跡・丘の公園第2遺跡・丘の公園14番ホール遺跡・花鳥山遺跡・桜井畑遺跡・稻荷塚古墳・西川遺跡、それに生産遺跡分布調査関係の成果として小倉窯跡・天狗沢瓦窯跡の計9遺跡を紹介した。つづいて第2回（1990年3月27日～4月8日）は、中込遺跡・獅子之前遺跡・甲ッ原遺跡・塩川遺跡・身洗沢遺跡・長田口遺跡・大輪寺東遺跡・川田瓦窯跡の8遺跡を、第3回（1991年3月26日～4月14日）は、小坂遺跡・甲ッ原遺跡（2年次）・東山南遺跡・村前東遺跡・地耕免遺跡・塩川遺跡・甲府城跡の7遺跡を、第4回（1992年3月27日～4月19日）は、外ガイド遺跡・宿尻遺跡・甲ッ原遺跡（3年次）・米倉山B遺跡・平野遺跡・新居道下遺跡・二本柳遺跡（農道部分）・甲府城跡（2年次）と、各年度の主要な調査成果を紹介しており、毎回2～3千人の観覧者を得て、埋蔵文化財の普及に一役かっている。

7. 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

日	時	1993年2月25日
場	所	甲斐風土記の丘研修センター
研修テーマ		脆弱遺物の取扱い方

当センターでは年1回、市町村の埋蔵文化財発掘担当者を対象に研修を実施している。本年は、奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官の肥塚隆保氏を講師に招き「脆弱遺物の取扱い方」と題した講演をいただいた。内容は、木製遺物等の有機質遺物や金属製遺物の遺跡での取り上げ方から、保存処理に至る過程をスライドやVTRを使用して具体的に解説していただいた。

8. 埋蔵文化財センター10年のあゆみ

当センターが1982年4月に創立されてから、昨年度で満10年を経過し、1992年10月12日には創立10周年記念式典を挙行了した。この間年報を発行し、事業の概要を報告してきたが、ここで10年のあゆみの概略を記しておきたい。

1982年度から1991年度までの10年間で発掘調査を行った遺跡は98遺跡となり、面積ではほぼ28万㎡に達し、これらの遺跡の発掘調査報告書は74冊となった。内容は旧石器時代から近世に至るまで幅広く、本県の歴史を解明する上で、貴重な資料となった。また遺跡調査発表会や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の活用などを行い、考古博物館とも協力して啓蒙普及活動も展開してきた。この他研究活動や市町村の指導を行った成果も大きい。

専門職員（正規職員）数の推移をみると、1982年が10名であったが、1989年度にリニアモーターカー山梨新実験線や甲西バイパス関係の発掘調査のために19名に増員され、以後増員され続け、1991年度には24名となった。発掘件数はこの10年間で少し増加しただけであるが、1件当たりの面積は広がっていて、この傾向は本年度まで続いている。なお別表の年度別発掘遺跡の面積は、発掘届けを提出していない試掘は除いている。

年度	事 項	発 掘 調 査	発掘調査報告書等の刊行
1982	<ul style="list-style-type: none"> ・所長以下職員16名発令、仮事務所を県庁南別館に置く（4.1） ・埋蔵文化財センター建物完成（7.31） ・開所式挙行（11.3） 	天神等10遺跡を発掘	
1983		銚子塚古墳等8遺跡を発掘	豆塚遺跡等5冊を刊行
1984	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回遺跡調査発表会（以下毎年）開催 	村上等8遺跡を発掘	銚子塚古墳等8冊を刊行
1985		上の平等10遺跡を発掘	釈迦堂遺跡Ⅰ等7冊を刊行
1986		丘の公園等8遺跡を発掘	釈迦堂遺跡Ⅱ等13冊を刊行
1987		花鳥山等9遺跡を発掘	金生遺跡Ⅰ等8冊を刊行
1988		天狗沢窯跡等9遺跡を発掘	金生遺跡Ⅱ等11冊を刊行
1989	<ul style="list-style-type: none"> ・課制施行・総務課1担当、調査研究課2担当（4.1） 	塩川等9遺跡を発掘	身洗沢遺跡等8冊を刊行
1990	<ul style="list-style-type: none"> ・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会を山梨で開催（10.17～18） ・県内市町村埋蔵文化財発掘担当者第1回研修会（以下毎年）開催（2.21） 	甲府城跡等13遺跡を発掘	東山南(B)遺跡等3冊を刊行
1991	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究課3担当制となる（4.1） 	米倉山B等14遺跡を発掘	青木北遺跡等9冊を刊行
1992	<ul style="list-style-type: none"> ・所長以下職員37名となる ・創立10周年記念式典挙行（10.2） 	二本柳等17遺跡を発掘	川又坂上遺跡等11冊を刊行

1 発掘件数・面積、専門職員数の推移

()内は試掘した事業件数

年		1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	計
発掘 件数 (件)	埋文センター	10	8(1)	8(1)	10(1)	8(7)	9(7)	9(7)	9(6)	13(7)	14(12)	98(49)
	本県全体	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	676
	全 国	13,638	14,540	14,862	16,024	18,076	21,755	23,244	23,500	25,000	26,053	196,692
面積(m ²)	埋文センター	27,190	8,664	31,003	7,830	13,060	48,530	20,475	35,260	31,200	57,440	280,652
専門 職員数	埋文センター	10	12	12	10	10	10	10	19	21	24	
	全 国	2,392	2,606	2,783	2,972	3,232	3,415	3,649	4,000	4,366	4,669	

年度別発掘遺跡

No.	1982 (57) 年度			1983 (58) 年度			1984 (59) 年度		
	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積
1	天神遺跡	大泉村	10,000m ²	銚子塚古墳	中道町	122m ²	丸山塚古墳	中道町	53m ²
2	宮の前遺跡	市川町	2,000	丸山塚古墳	中道町	750	飯田一丁目遺跡	甲府市	300
3	北一の沢遺跡	境川村	1,540	勝沼氏館跡	勝沼町	1,000	柳坪遺跡	長坂町	26,000
4	青木北遺跡	高根町	2,000	市川北遺跡	山梨市	40	丘の公園4番ホール遺跡	高根町	1,600
5	梅の木遺跡	高根町	1,000	藤垓遺跡	境川村	1,740	後呂遺跡	中道町	800
6	東原遺跡	大泉村	8,500	一の沢西遺跡	境川村	2,500	浜井場遺跡	豊富村	50
7	勝山城遺跡	中道町	1,000	手古松遺跡	境川村	212	村上遺跡	中道町	400
8	甲府城跡	甲府市	450	久保屋敷遺跡	韮崎市	2,300	上野原遺跡	中道町	1,800
9	真福寺遺跡	境川村	350						
10	妻神遺跡	一宮町	350						
	計		27,190			8,664			31,003

No.	1985 (60) 年度			1986 (61) 年度			1987 (62) 年度		
	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積
1	銚子塚古墳	中道町	730m ²	上の平遺跡	中道町	4,500m ²	丘の公園第2遺跡	高根町	800m ²
2	かんかん(茶)塚古墳	中道町	230	岩清水遺跡	中道町	2,680	丘の公園第5遺跡	高根町	25,000
3	杯 塚	中道町	120	考古博物館構内古墳	中道町	20	関山遺跡	上野原町	17,000
4	切附遺跡(古墳)	境川村	200	清里の森第1遺跡	高根町	3,500	西川遺跡	須玉町	2,800
5	智光寺遺跡	境川村	1,300	郷蔵地遺跡	須玉町	1,700	横堰遺跡	御坂町	1,100
6	弥二郎遺跡	豊富村	450	一の沢北遺跡	境川村	500	稲荷塚遺跡	中道町	550
7	横畑遺跡	豊富村	900	天神下遺跡	一宮町	100	花鳥山遺跡	八代町	810
8	上の平遺跡	中道町	3,000	山口遺跡	豊富村	60	下長崎遺跡	八代町	420
9	駒井遺跡	韮崎市	400				両の木神社遺跡	一宮町	50
10	於曾屋敷(館跡)	塩山市	500						
	計		7,830			13,060			48,530

No.	1988 (63) 年度			1989 (元) 年度			1990 (2) 年度		
	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積
1	丘の公園第5遺跡	高根町	1,100㎡	長田口遺跡	橿形町	1,700㎡	長田口遺跡	橿形町	1,200㎡
2	長田口遺跡	橿形町	600	甲ッ原遺跡	大泉村	500	甲ッ原遺跡	大泉村	3,000
3	鍋弦塚遺跡	中道町	5,000	塩川遺跡	須玉町	12,000	甲府城跡	甲府市	3,500
4	立石遺跡	中道町	300	獅子之前遺跡	塩山市	3,000	塩川遺跡	須玉町	4,000
5	妻の神遺跡	高根町	2,000	東山南(B)遺跡	中道町	8,000	獅子之前遺跡	塩山市	1,100
6	水呑場北遺跡	三珠町	375	中込遺跡	長坂町	970	東山南遺跡	中道町	3,800
7	桜井畑遺跡A	甲府市	5,800	大輪寺東遺跡	斐崎市	2,400	東山北遺跡	中道町	2,000
8	桜井畑遺跡B	甲府市	1,500	身洗沢遺跡	八代町	1,690	七ッ内C遺跡	橿形町	4,000
9	桜井畑遺跡C	甲府市	3,800	湯沢遺跡	高根町	5,000	村前東A遺跡	橿形町	1,600
10							新居道下遺跡	若草町	100
11							小坂遺跡	大泉村	2,000
12							観音溝遺跡	石和町	300
13							地耕免遺跡	御坂町	4,600
	計		20,475			35,260			31,200

No.	1991 (3) 年度			1992 (4) 年度		
	遺跡名	所在地	面積	遺跡名	所在地	面積
1	長田口遺跡	橿形町	720㎡	甲ッ原遺跡	大泉村	1,715㎡
2	甲ッ原遺跡	大泉村	1,800	甲府城跡	甲府市	4,700
3	甲府城跡	甲府市	7,300	東山北遺跡	中道町	3,000
4	東山北遺跡	中道町	3,000	唐松遺跡	双葉町	1,400
5	前の山狼煙台	須玉町	2,500	水口遺跡	境川村	2,800
6	篠八田遺跡	高根町	360	中川田遺跡	甲西町	3,500
7	新居道下遺跡	若草町	4,500	新居道下遺跡	若草町	1,500
8	二本柳遺跡(甲西バ)	若草町	8,400	向河原遺跡	甲西町	6,800
9	二本柳遺跡(農道)	若草町	660	二本柳遺跡	若草町	16,800
10	宿尻遺跡	斐崎市	250	油田遺跡(Ⅱ、Ⅳ区)	甲西町	7,940
11	米倉山B遺跡	中道町	4,450	川又坂上遺跡	高根町	1,400
12	西の入遺跡	高根町	1,300	米倉山B遺跡	中道町	7,000
13	平野遺跡	増穂町	20,000	菖蒲池遺跡	中道町	7,000
14	外ガイド遺跡	大月市	2,200	音羽遺跡	甲府市	849
15				榎田遺跡	甲府市	3,400
16				揚久保遺跡	都留市	1,400
17				桑戸(後町)遺跡	春日居町	200
	計		57,440			71,404

年度別の試掘を行った事業は以下の通りである。

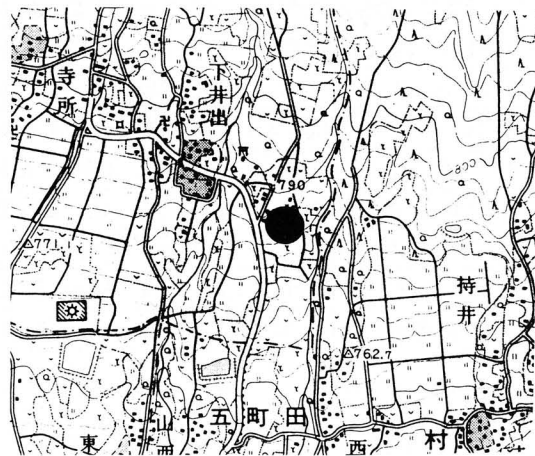
1982～1991年度に八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査。1987年度に生産遺跡分布調査(5遺跡)、笛吹川農業水利事業(2遺跡)。1988年度に生産遺跡分布調査(4遺跡)、県道石和石橋線(1遺跡)、風土記の丘整備(1遺跡)。1989年度に生産遺跡分布調査(3遺跡)、甲西バイパス(2遺跡)、風土記の丘整備(1遺跡)。1990年度に甲西バイパス(5遺跡)、東山梨合同庁

舎(1遺跡)。1991年度に甲西バイパス(3遺跡)、リニア新実験線(5遺跡)、古代官衙・寺院址分布調査(3遺跡)。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. ^{かぶつばら} 甲ッ原遺跡

所在地 北巨摩郡大泉村西井出
事業名 一般県道須玉八ヶ岳公園線建設
調査期間 1992年4月20日～10月31日
(第4次調査)
調査面積 1715㎡
担当者 山本茂樹、五味信吾



甲ッ原遺跡 位置図

本遺跡は、八ヶ岳の南麓に位置しており、油川と甲川に挟まれた台地に立地する。本年は第4次の発掘調査となり、昨年度の残りの部分及び新規買収地区の発掘調査を行った。

調査は昨年度設定したC区で、対象地は畑地で表土から確認面までは非常に浅かったことにより、耕作等で住居址の壁が壊されたりしているものもかなり多い。壊されている住居址のなかには、床面まで攪乱が入り込み、炉が破壊されているものも数軒存在する。

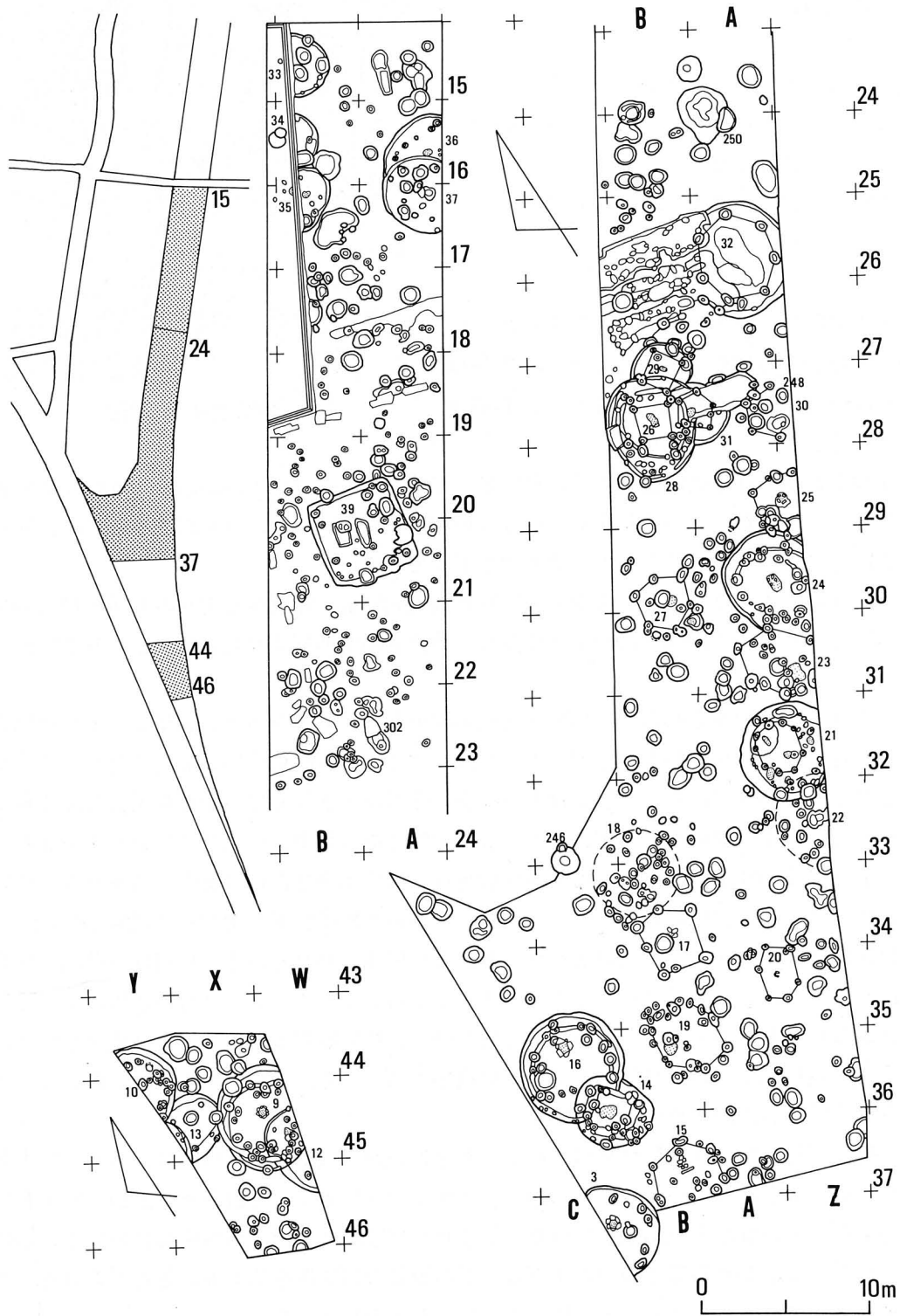
このような状況の中で発見された住居址は27軒である。なお整理段階であるため詳細に記述することはできないが、縄文時代前期の諸磯C式期が6軒、中期初頭五領ヶ台期が2軒、中期の勝坂期は13軒、曾利期は3軒、平安時代が1軒、時代不明が2軒である。また、土坑は約140基の調査を行った。

住居址については、重複するもの(9・12住、14・16住、21・22住、26・28・29・31住、36・37住)・拡張を行ったもの(16住、21住、24住)等が見受けられる。

炉址については、地床炉・埋甕炉及び石囲炉等が認められ、埋甕炉を設置する住居は、19・29・37住である。特に21住は、縄文時代前期の諸磯C式期の住居址で、北側の壁よりに炉を設置し、ある一定の期間使用した後、その炉を埋めて住居を拡張し、新たに炉を4カ所設置したような状態で発見された。37住は、2個体の土器を設置した埋甕炉で、時期は五領ヶ台期である。

平安時代の住居址は1軒だけの発見であるが、墨書土器が出土し貴重な資料を提供することとなった。

土坑については、250・302号から琥珀玉が検出され、縄文時代中期初頭五領ヶ台期の土器をともなっている。県内でも縄文時代の遺跡からの出土は極めて珍しいものとなった。また246号では深さが210cmを計測し、遺跡内では一番深いものである。248号からは、特殊脚付鉢が出土し、脚部には3ヶ所三角形の透かしが認められ、口縁部には赤彩が施されている。175号からは、坑底より土偶の頭が検出された。



甲ッ原遺跡 全体図 (1/400)

2. 唐松遺跡

所在地 北巨摩郡双葉町宇津谷
事業名 唐松団地（宇津谷ニュータウン）
建設事業
調査期間 1992年11月5日～12月25日
調査面積 1,400㎡
担当者 山本 茂樹、五味 信吾

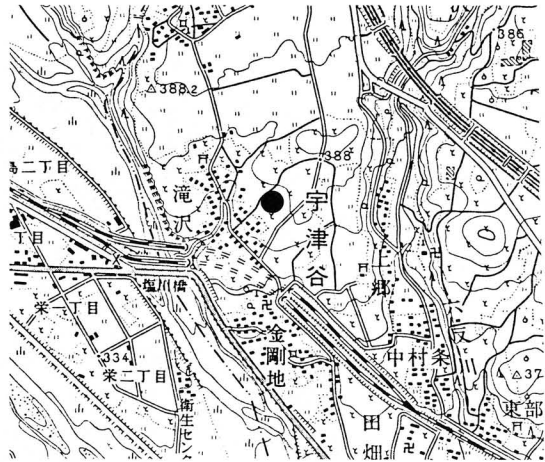
唐松遺跡は、茅ヶ岳から釜無川・塩川に向かって延びる台地の末端部に位置し、標高は約377mを測る。遺跡の南で塩川と釜無川は合流する。

発掘調査は、住宅供給公社の「唐松団地」造成に伴い、7,000㎡の範囲にわたって実施することになったが、平成4年度はこのうちの南西部分1,400㎡について調査を行い、残りの北東部分については平成5年度に調査する予定である。

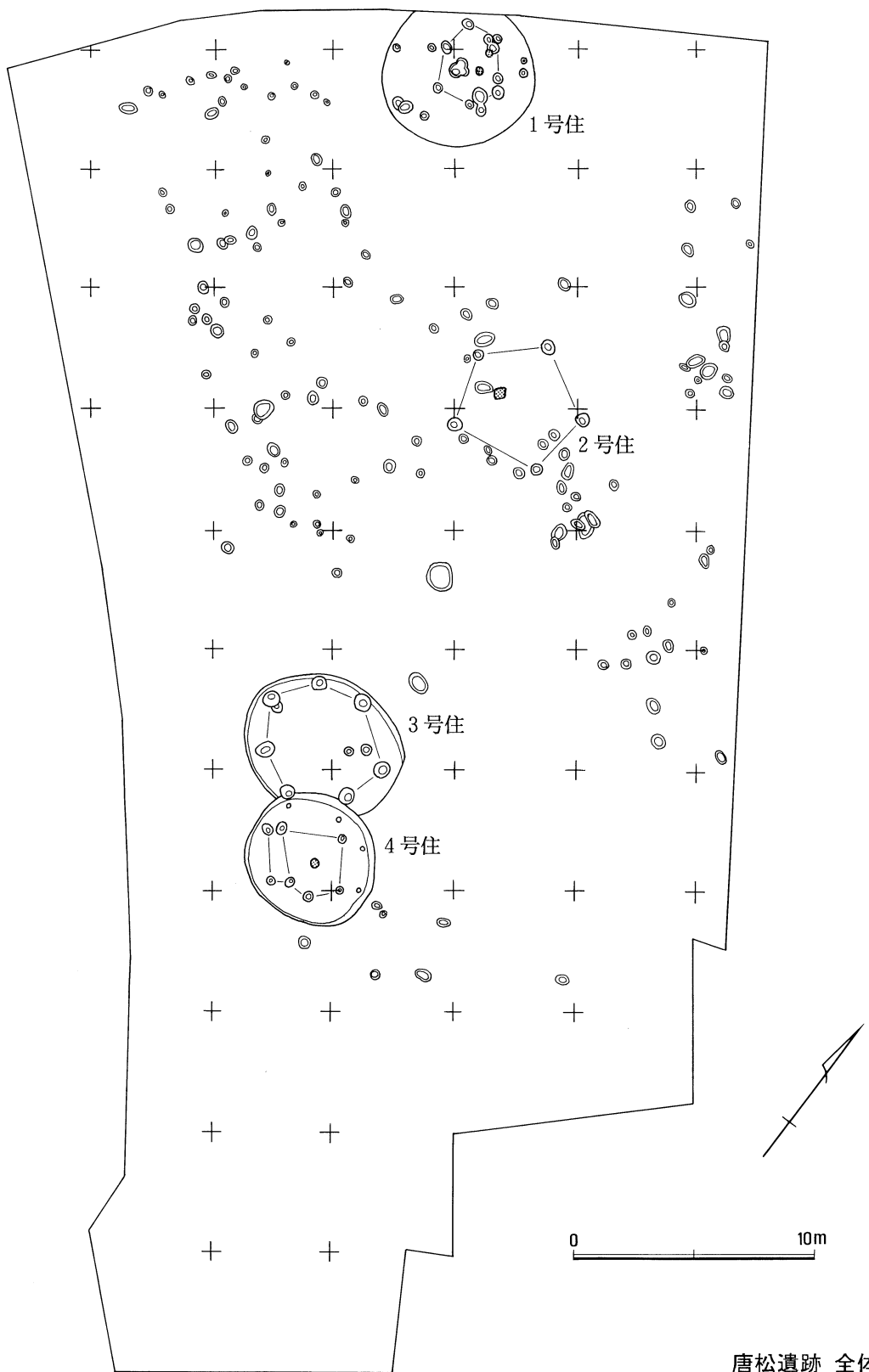
今年度の調査区は、北西から南東の方向に最大約55m、北東から南西の方向に最大約30mの範囲で、北東から南西に緩やかに傾斜し、調査区の南西端より約10mのところ急激に下がる。

調査区内から検出された土器は縄文時代中期のものが大半を占め、遺構としても検出された住居址4軒が同時期の土器を伴うことから、ここに縄文時代中期の集落の存在を想定することができる。住居址は、地盤と覆土の色調の差がはっきりしない上に粘土質で硬く締まっているため、壁面や床面を明確にすることが困難であったが、柱穴は4軒とも確認されている。調査区北西端から検出された1号住居址は、床面中央付近に埋甕炉2基を持ち、柱穴も検出されている。北側の埋甕炉については、2つの土器の底部が重なった状態で検出された。2号住居址は、炉と柱穴が発見されたことにより確認されたものの、住居址の壁面、床面は検出されていない。3号住居址と4号住居址は重複しており、北に3号住居址、南に4号住居址が存在する。このうち、3号住居址は7箇所柱穴を持つ住居で、炉は検出されていない。4号住居址については柱穴と埋甕炉が検出されている。この2軒の住居址内および周辺からは土器、石器が多数出土している。

遺物に関しては、埋甕炉に利用されていた土器の残存状態がよいほかは、もろくて表面が磨耗している土器が多い。一方、石器の出土量は非常に多く、打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・凹石・石匙などが出土している。とりわけ打製石斧の出土量が極端に多いことが特徴的である。こうした石器の出土の様相は、この遺跡の特殊性を示すものと考えられる。このほか、特殊な遺物として石棒・耳栓・土偶なども出土している。



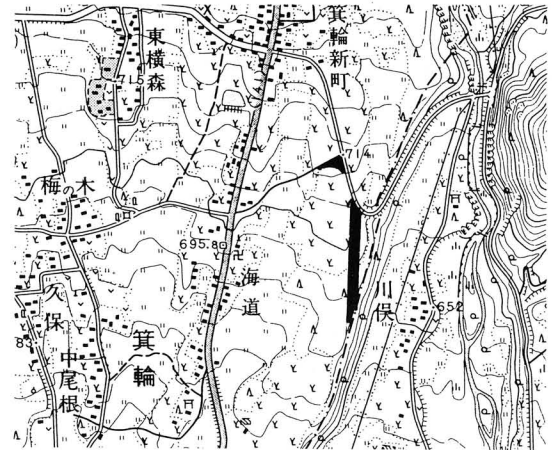
唐松遺跡 位置図



唐松遺跡 全体図

3. 川又坂上遺跡

所在地 北巨摩郡高根町箕輪字上の原他
 事業名 ハケ岳広域農道建設事業
 調査期間 1992年5月11日～9月30日
 調査面積 1,460㎡
 担当者 新津 健、三田村美彦



川又坂上遺跡 位置図

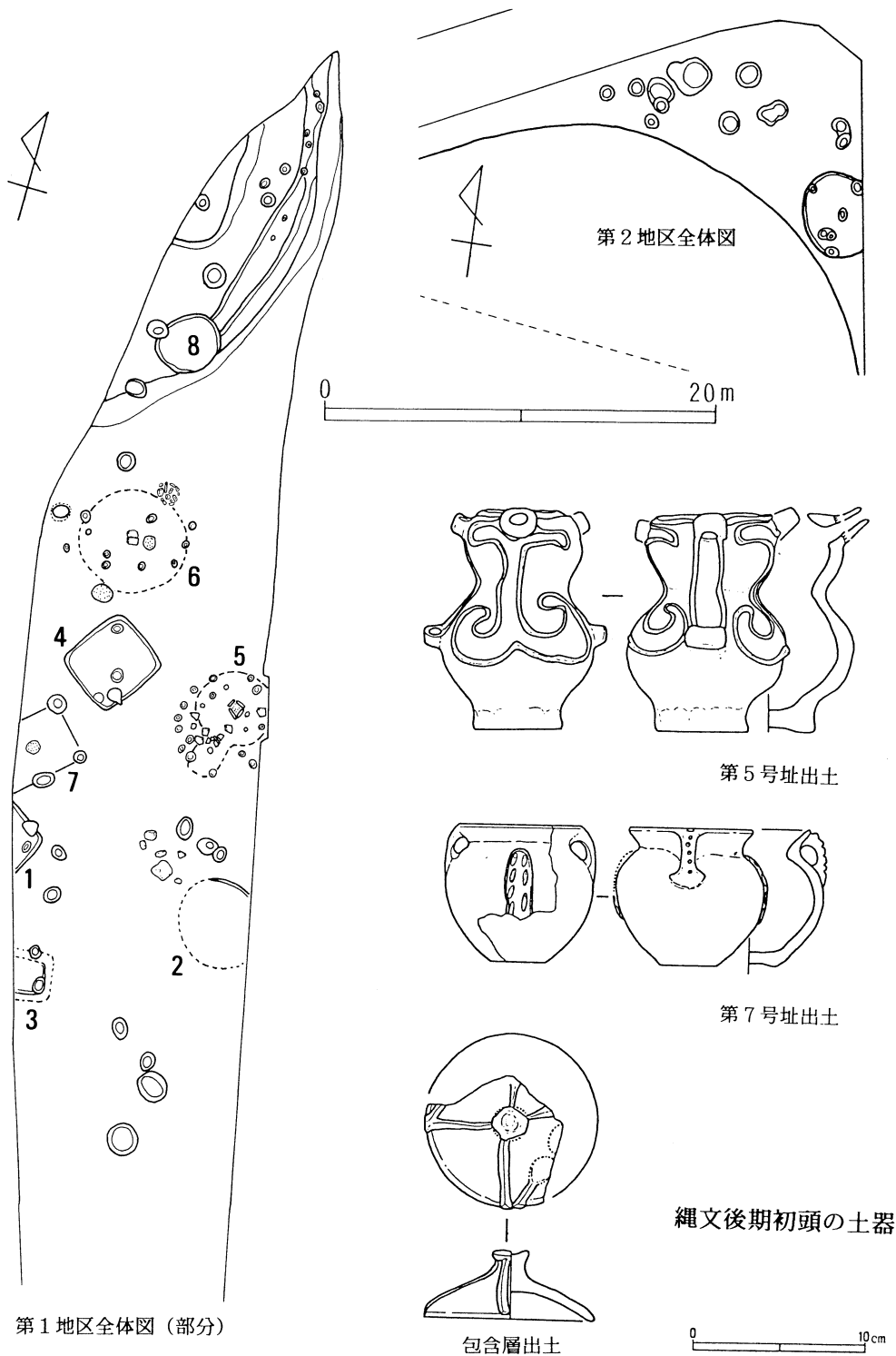
本調査はハケ岳広域農道建設に先立って行われたもので、2箇所の地区を対象とした。昭和62年度高根町により実施された遺跡分布調査によると、本地区の西に接して下原遺跡

が、北に接して川又坂上遺跡が所在している。特に川又坂上遺跡については、昭和59年度に町教育委員会により発掘調査が行われており、縄文時代住居3軒（中期後半1・後期初頭2）、中期末埋甕1、平安時代住居1軒などが発見されている。今回の第1地区もこの昭和59年度調査区の南に続くものである。第2地区は第1地区の北約400mに位置し、町分布調査の下原遺跡の範囲内に含まれるものである。地形図からみると、東側に浅い谷を伴った南北に長い尾根が走っており、この尾根の平坦部が下原遺跡、尾根の東斜面から谷にかけてが川又坂上遺跡となっていて、本来は一つの遺跡・あるいは一つの遺跡群としてとらえられることから、今回の調査では一括して川又坂上遺跡としたものである。

第1地区は尾根の東斜面から谷部分に該当し、長さ120mに亙り調査を行ったが、谷の中央部にあたる南半分の調査区からは遺構は発見されず、出土遺物も僅かであった。これに対して斜面部に近い北半分には縄文から平安時代の遺構が密集しており、土器・石器などの遺物が多く出土した。まず縄文時代については、中期の竪穴状遺構1、後期初頭の敷石住居2、石鏃製作址1、中期終末から後期初頭の建物跡とみられる柱穴列1、それに土壌14基がある。石鏃製作址とした第2号址は直径4mほどの窪地状の遺構であり、夥しい量の黒曜石屑や未製品それに製品などが出土したことから製作址とみなしたものである。また、敷石住居のうち第5号址とした遺構は一部しか石が残っていなかったが、南方向に張り出しを持った住居と思われるものである。瓠形をした小型注口土器は注目すべき遺物である。柱穴列は一部しか調査できなかったが短辺3m、長辺5m以上を測るもので、焼土を伴っている。これらは尾根の斜面から谷部に位置しており、集落の最東端が調査されたものと思われる。また、これら中期終末から後期初頭の遺構上面には晩期の包含層である黒色土が堆積しており、氷Ⅰ式土器片が多く出土した。他に古墳時代中頃の竪穴状遺構1、平安時代の住居2軒が発見された。

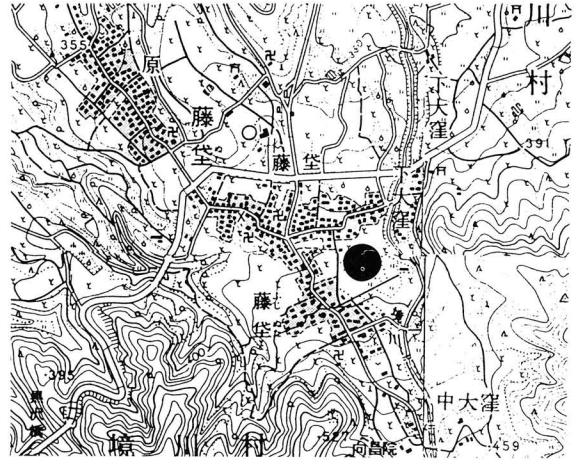
第2地区は尾根の最高所（標高714m）に近い平坦部に位置する。中期後葉の竪穴状遺構や中期後葉から後期前葉の土器を出土する土壌11基が発見された。これは密集しており、土壌群の箇所を調査したものかもしれない。

なお、早期押型文・条痕文・前期初頭繊維土器も少量ながら出土しており、川又坂上遺跡は縄文時代の大規模な集落であり、さらには古墳時代から平安時代にいたるまでの集落が形成されていたことがわかる。今回はこの広範な遺跡の東端と中央部の一部が調査されたことになる。



4. ^{みずくち}水口遺跡

所在地 東八代郡境川村藤壘728番地他
事業名 一般県道鶯宿中道線建設
調査期間 1992年5月6日～1993年3月15日
調査面積 2,800㎡
担当者 今福利恵、田口明子



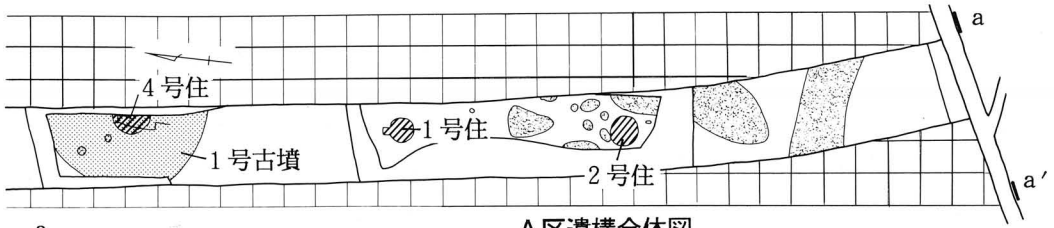
水口遺跡 位置図

甲府盆地の南壁を作る御坂山系の支脈、鶯宿峠の谷に源流をもち北流する境川の中流域左岸、北斜面に本遺跡は立地し、標高約400mを測る。本遺跡のすぐ北には、滝ヶ原塚古墳、滝ヶ原2号墳、毘沙門塚古墳、子の神古墳等が存在し、古墳群を形成することが知られている。また、500m程東には須恵器の窯跡である牛居沢遺跡が調査されている。周辺はスモモ・桃・葡萄などの果樹地帯となる。

調査は県道建設に伴い、幅約12m、長さ約250mの南北に長い区域で行われた。東西に走る道路によって、北をA区、南をB区とした。調査の結果、縄文時代後期を中心とした配石遺構を伴う集落跡と古墳時代後期の古墳1基が発見された。遺構の残存状況は全体的に比較的良好であったが、一部耕作や石垣によって攪乱を受けている。

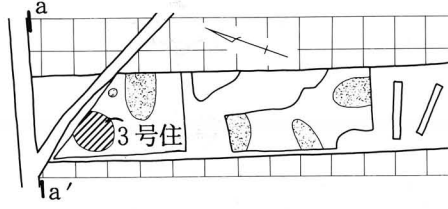
縄文時代の遺構は、調査区全域に認められる。中期末の住居址1軒（2号住）、後期の称名寺期1軒（4号住）、堀之内期2軒（1、3号住）、配石21基、土壙2基を確認した。後期の住居址は配石の集中するA区南側を狭んで南北に分かれて確認された。B区の3号住居址より南にも配石が集中しているが、他の遺構は確認されなかった。中期末の2号住居址は方形石囲炉を持ち、プランは周囲の配石が途切れることから円形に近いと推定される。4号住居址は方形石囲炉を持っており、その西側に正位の埋設土器が認められた。プラン、規模は不明瞭である。1号住居址は柄鏡形敷石住居で、多くは意図的に破壊されている。3号住居址も敷石住居であるが、北側を道で削平されているために柄部が存在するか不明である。また、方形石囲炉を持ち、そこに土器が正位に埋設されていた。配石は、帯状に調査区外に伸びるもの、円形、不整形にまとまるもの、石列など様々な形態を示すが、ほぼ一定の大きさの礫が配される。B区4号配石は方形の敷石の両側に平らな石を並べ、角に石棒が立てられている。また、4・5・7・10号配石等、土壙を伴うものもある。遺物は後期を中心に中期末から晩期前半の土器が多く見られ、他に土偶、土製耳飾り、石棒、打製・磨製石斧、石皿、磨石、石鏃、槍先形尖頭器などが出土している。

古墳は調査区の北端に位置し、半分以上が調査区外に広がる。上部の攪乱が著しいため、全容は明らかでない。主体部は横穴式石室の側壁の一部が残存するのみである。遺物は主に前庭部から鉄鏃、鉄釘、須恵器の破片等が出土した。時期は6世紀後半から7世紀代である。






A区遺構全体図

0 20 m

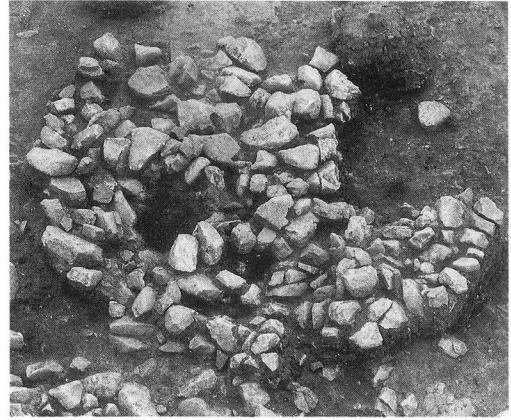


B区遺構全体図

-  : 住居址
-  : 配石
-  : 古墳



1号住居址



A区 8号配石



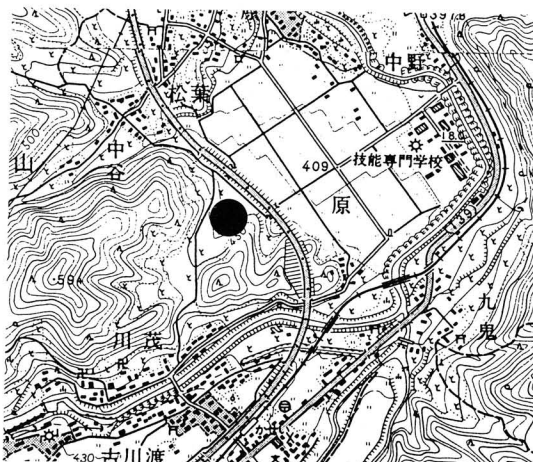
A区 配石



古墳

5. 揚久保遺跡

所在地 都留市小形山字大原溝上他
事業名 リニアモーターカー山梨
新実験線建設
調査期間 1992年11月1日～12月16日
調査面積 1,400㎡
担当者 保坂康夫、高橋みゆき



揚久保遺跡 配置図

本遺跡は、桂川左岸に迫る山の頂から北東に向けて発達する幅約150m、長さ500m程の緩やかな谷底平地の中央部に位置する。

本調査は、リニアモーターカー山梨新実験線建設事業に伴う変電所建設に先立って、都留市小形山字大原溝上他で行った。これに先立ち、同年9月21日～10月31日まで試掘調査を行った。その対象面積は16,000㎡で、41箇所のトレンチを設定し遺構・遺物の有無を確認した。今回は、この試掘調査によって確認したB-1区、C区の調査を継続して行った。また、B-1区は、中央をほぼ東西に延びる沢に二分されているため、便宜上南側をB-1区南側、北側をB-1区北側とした。

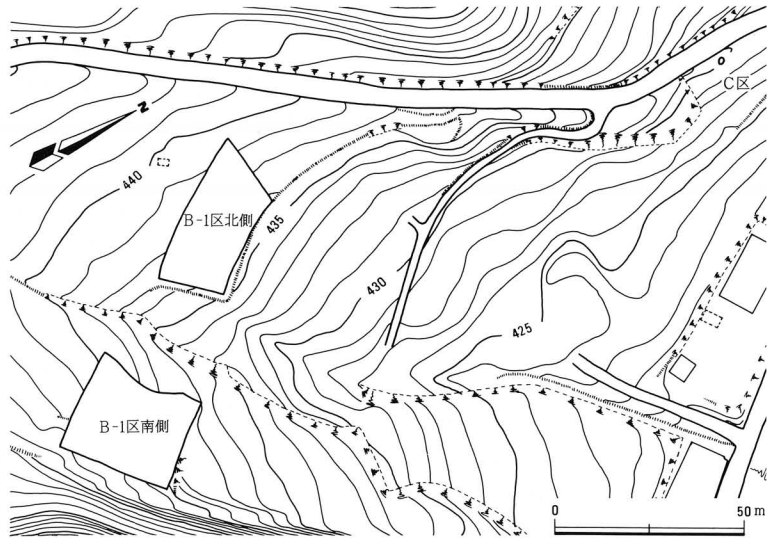
調査の結果、縄文時代の陥し穴1基、平安時代以降の土坑12基、近世の掘建柱状建物址1軒、水路3条、溝2条、性格不明のピット21基を検出した。また、線状に配列されているような、人頭大程の礫も確認されている。遺物は、調査区全体から出土しているが、遺構に伴うものは稀であった。

B-1区南側では、東西方向に主軸を持つ掘建柱状建物址が検出され、これに平行及び直角方向に走る溝が2本確認された。また、これと異なる方向の溝も近接していた。この溝は底に砂礫が堆積しており、水路として利用された可能性がある。このため、この溝は、掘建柱状建物址に付随する何らかの施設と思われる。

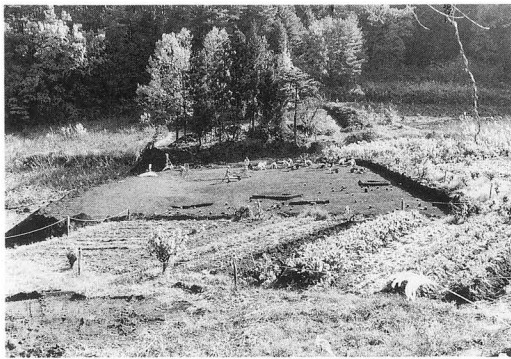
B-1区北側では、土坑が10基検出できた。円形のを主体とし、直径1～1.2m、深さ0.1～0.38mを測る。層位的にみて平安時代以降のものと思われる。これらの、遺構に伴う遺物は確認されていないが、試掘時に確認した縄文時代の包含層から多数の縄文土器が発見され、打製石斧や石匙、礫器も出土し、層位的に観察することができた。

C区では、縄文時代の陥し穴が1基検出された。これは、長径1.8m、短径1.23m、深さ1.1mの楕円形であり、底面にはピットが2基存在した。しかし、遺物は全く確認できなかった。

今回の調査は、揚久保遺跡の一部であり、縄文時代及び平安時代以降の遺跡であることが確認できた。このため、来年度の調査予定であるB-2区についても、かなりの成果が期待できると思われる。



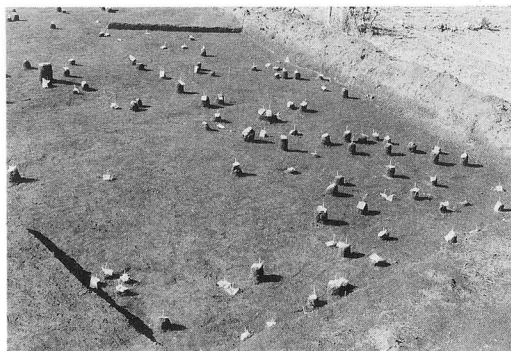
揚久保遺跡 全体図



揚久保遺跡 調査区全景（北から）



揚久保遺跡 調査風景（南から）



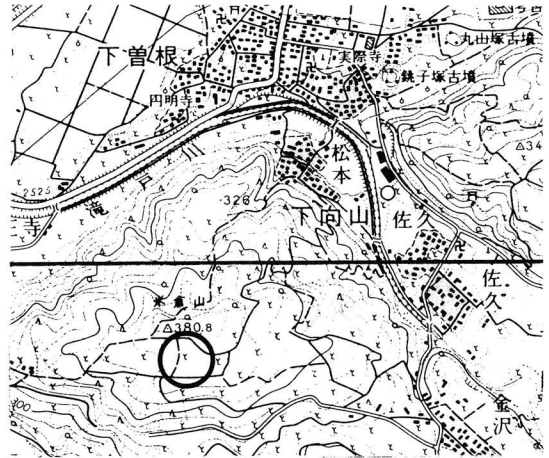
B-1区北側遺物出土状況（東から）



B-1区南側遺構検出状況（北から）

6. 菖蒲池遺跡

所在地 東八代郡中道町下向山字菖蒲池
事業名 米倉山ニュータウン整備事業
調査期間 1992年5月6日～12月25日
調査面積 7,000㎡ (50,000㎡)
担当者 森原明廣、早川典孝



菖蒲池遺跡 位置図

米倉山ニュータウン整備事前に伴う調査は昨年度に開始され、本調査もその一環として実施された。同一事業に伴う調査の実施されている米倉山B遺跡は本遺跡の南東約0.6kmに位置する。

本遺跡は、甲府盆地南縁に広がる曾根丘陵の一角をなす米倉山（標高380m）の山頂部に位置する。この米倉山山頂の南側緩斜面にはカルデラ状の凹地が存在し、本遺跡はこの凹地周辺に展開する。字名「菖蒲池」の語源は、この凹地に存在する小規模な自然湧水池に求められる。

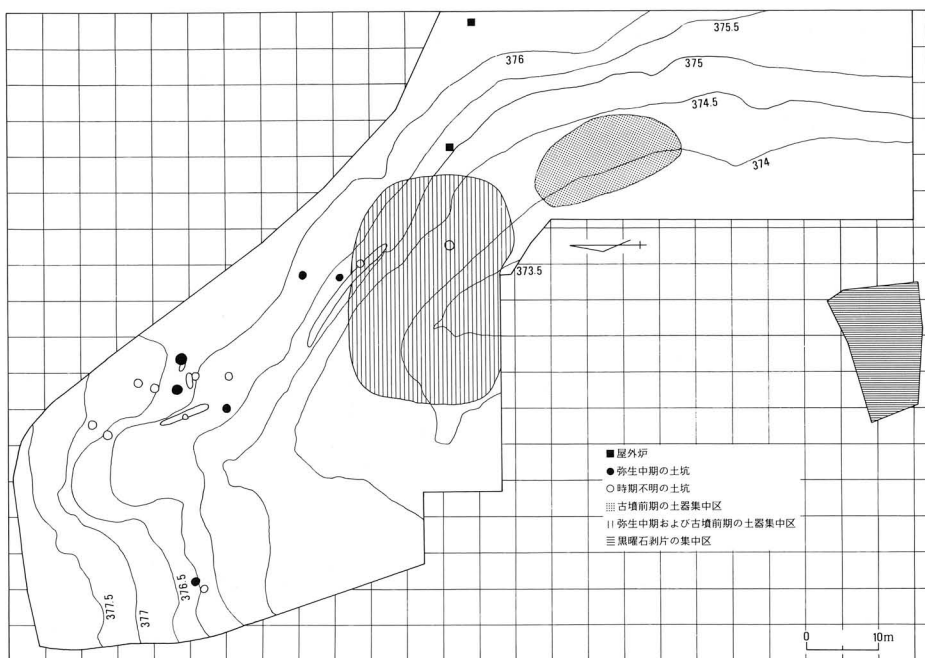
調査対象面積は約50,000㎡を測ったが、その全域が遺跡か否かは不明であった。そのため調査は、遺跡の広がりを確認すべく試掘調査から開始した。試掘調査は1.5m×10m程度のトレンチを120ヶ所設けて実施した。その結果、前述の凹地の周辺のみで遺跡が存在することが判明し、この5,800㎡について全面的な調査を実施したものである。

前面調査の結果、確認された遺構は弥生時代中期の土坑6基、時期不明の土坑64基、時期不明の溝2条、時期不明の屋外炉2基である。また、遺構は伴わないが黒曜石剥片の集中区や弥生時代中期の遺物集中区あるいは古墳時代前期の遺物集中区も検出され、「水辺の遺跡」として注目できよう。遺物は全点の測点に留意し、総数は14,000点を上回るに至った。しかし、遺物の大多数は土器の小片であったため、総量はミカン箱大のケースに10箱程度であった。

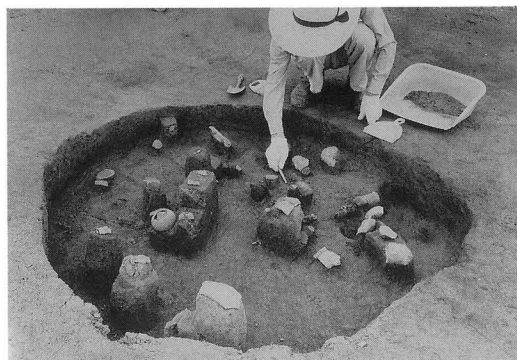
検出された遺構のうち、特筆すべきものは弥生時代前期後葉～中期前葉に所属すると考えられる土坑群である。土坑群は、凹地から延びる自然谷に挟まれた小規模な舌状の尾根部上に数基ずつ分散して存在した。これらの土坑はいずれも直径1m～1.5mを測る円形の土坑であり、覆土中から条痕文系の土器片が主体的に出土している。また、客体的な遺物として、黒曜石製の石鏃や剥片などを覆土中に含む点は、各土坑に共通する特徴となっている。

これらの土坑はその所属時期や立地環境などから、当初は「再葬墓」の可能性を考えた。しかし、「再葬墓」として確定できる要素は少なく、「墓塚」としての確証もない。今後の整理途上において、理化学的分析なども併せて行ない遺構の性格を探求する必要がある。

また、出土した条痕文系の土器群も施文工具などによる分類が可能であり、また縄文が施文される土器群なども共伴している。これらを整理・分析することにより、県内では希薄とされる当該期の資料を提供することとなり、今後の研究の一助となるものと思われる。



菖蒲池遺跡 全体図



第31号土坑（弥生時代中期）



土坑群（東より）



調査風景（北より）

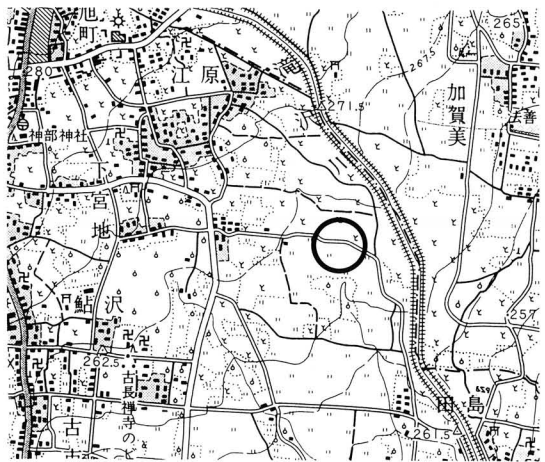


遺跡全景（北西より）

7. 向河原遺跡 むかがわら

所在地 中巨摩郡甲西町江原727、728他
事業名 一般国道52号（甲西バイパス）
建設

調査期間 1992年9月21日～12月23日
調査面積 6,800㎡（3,400㎡）
担当者 米田明訓、澤登正仁



向河原遺跡 位置図

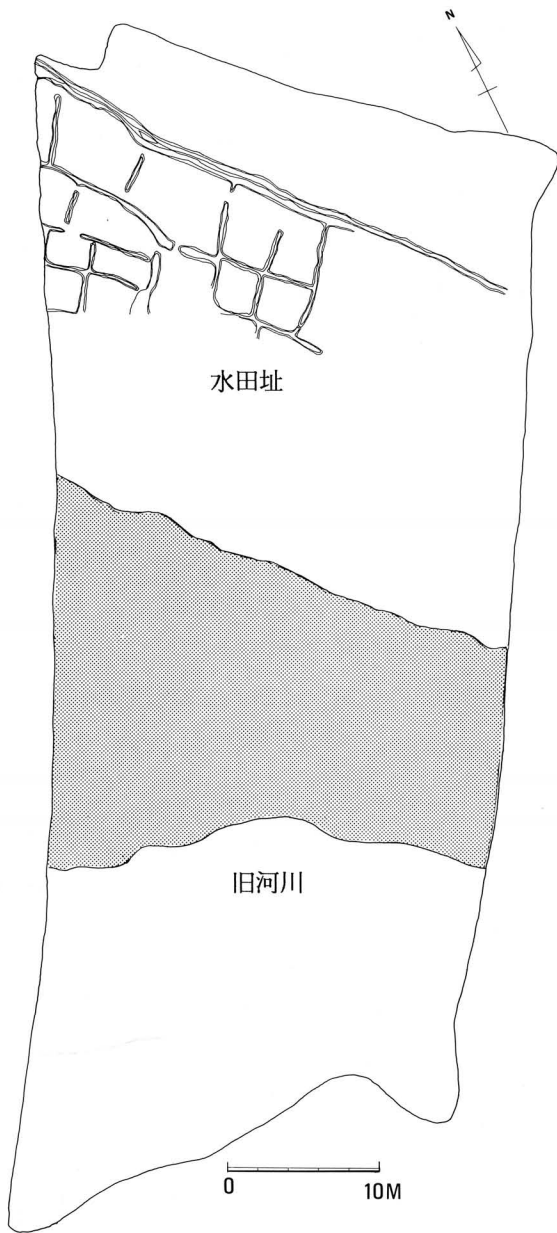
向河原遺跡は、甲府盆地西部にあたる御勅使川扇状地、その南部に位置する櫛形山から流れる数本の急流河川がつくる複合扇状地形の氾濫原の中にあり、釜無川と笛吹川の合流地点からも数キロ上流の所にある。

調査は、東西に走る道路によって、南を1区、北を2区として実施することにした。まず、対象地域を5mのシートパイルで囲み、周囲内側に排水用の溝を掘り、湧水を常時ポンプアップしながら発掘作業を実施した。試掘調査によって水田址は一部既に確認されてはいたが、その時代については遺物が出土していないため確定できなかった。断面土層観察によって地上から3mの深さの間で、水田址が存在すると思われる層は3層確認できた。今年度の本調査は以上のようなことから1区のこの3層を精査した。

1区の地層の概要は以下のとおりである。地表面から平均40cmほどが耕作土になっており、以下今年度掘り進めた地表面直下約3mまでは、シルト層・砂層・泥炭層の平均12～13枚前後の互層によって形成されていた。1区調査区域のほぼ中央部にこの層序を破壊し南東部に流れる幅16・7mの大きな礫層があった。この礫層は1901年（明治34）の大水害のものと思われる。

水田址の畦畔は表土耕作面より約1m下の泥炭層の調査区域北側約40m×40mの範囲で確認できた。この水田址は調査区域の中を東西に走る幅50cm、深さ30cmほどの溝より南に展開している。検出された畦畔は幅約30cm高さ約15cm程であった。その畦畔によって作られている水田群は大小さまざまな四辺形によって形成されており、確認された水田の中で最大のものの面積が約23㎡、最小のものが約6㎡であった。最大のものは検出時は確認できなかったが、栽培時はさらに四等分程に畦畔によって区画されていたものと思われる。また確認した畦畔からは水口が検出できず、水の取り入れはオーバーフロータイプだったと思われる。

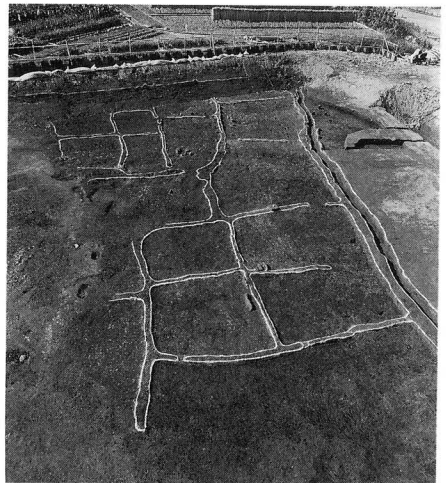
出土遺物の多くは植物遺体（樹木・木の実等）であるが、溝の底面と溝より北側の畦畔上面と同レベルの生活面と考えられる層から弥生時代中期の甕型土器（櫛描波状文）の破片がまとまって出土している。他に時代を推定できるような人工遺物が発見されず、この水田面が先程の出土土器と同時代に耕作されていたのではないかと想像できる。これより下の泥炭層は1層水田面の精査終了後順次調査を行なったが、水田遺構は確認できなかった。



向河原遺跡 遺構配置図



調査風景



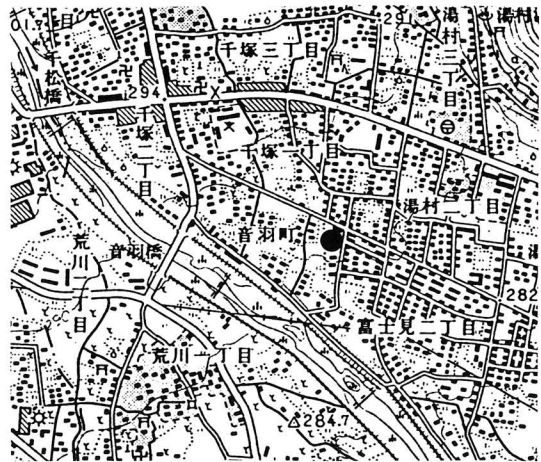
水田址全景



土層断面実測風景

8. 音羽遺跡

所在地 甲府市音羽町307-1他
事業名 県職員宿舍建替事業
調査期間 1992年11月27日～1993年2月5日
調査面積 約849㎡
担当者 高野玄明、橋田重男

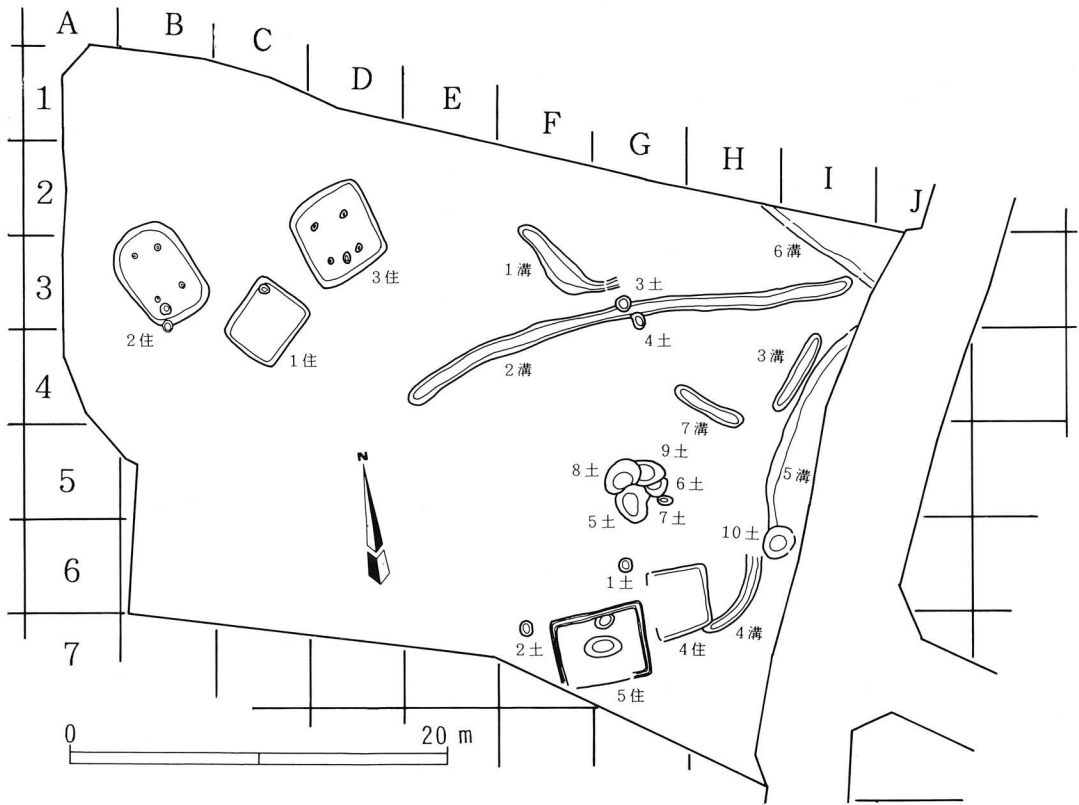


音羽遺跡 位置図

甲府盆地の北、荒川中流左岸に位置する音羽遺跡は、標高約290mを測る。本遺跡は、県職員住宅建設事業に伴うもので、本調査に先立ち試掘調査を行った結果、調査区全体に

見られる黒色土中より、遺物や遺構が確認されたことにより、今回の発掘調査を行うこととなった。今回の本調査により確認された遺構は、住居址5軒、土坑10基、溝状遺構7基が検出されている。1号住居址は、長辺3.7m、短辺3.3mの方形を呈している。カマドは住居址北西側に見られたが、袖石などは確認されず、若干焼土やカーボンが広がっていた。カマド脇には、貯蔵穴と思われる施設が確認されている。出土遺物は杯や甕の破片などが見られ、時期は奈良時代初頭に位置付けられる。2・3号住居址は弥生時代後期のものと思われ、2号住居址は長辺5.6m、短辺3.9mの楕円形を呈する。柱穴は4基確認されたものの、炉は確認出来なかった。3号住居址は長辺4.7m、短辺4.2mを測り、隅丸方形を呈している。柱穴は4基確認されているが、原木を分割して使用したと思われる痕跡を呈している。また、住居址南側で梯子受け穴が見られ、おそらく住居址の入り口にあたると思われる。2号住居址同様炉の確認は出来なかった。出土遺物は櫛描波状文を伴う土器片や磨製石鏃・凹み石などが検出された。5号住居址は長辺約5m、短辺約4mを測り方形を呈し、住居址内には周溝が見られる。カマド及び柱穴は確認できなかった。出土遺物は、須恵器の高台杯や、住居址南側の壁面に、むしろ編み用の錘と考えられる小礫が7点集中して検出された。古墳時代後期に位置付けられると思われる。2号溝は、調査区を東西に走り、長さ約25m、幅0.7m、深さ0.5mを測る。出土遺物は、覆土中上面から灰釉陶器などがみられたが、溝の性格はいまのところ判明しない。また、縄文時代後期の遺物が確認されたものの、該期の遺構は検出できなかった。

本遺跡は、甲府市の分布調査報告書に見られるように、かなり広範囲にまたがる遺跡として報告されている。今回の調査は、ほんの一部であったものの、荒川流域の带状微高地を利用し該期の集落が営まれていたことが窺える。



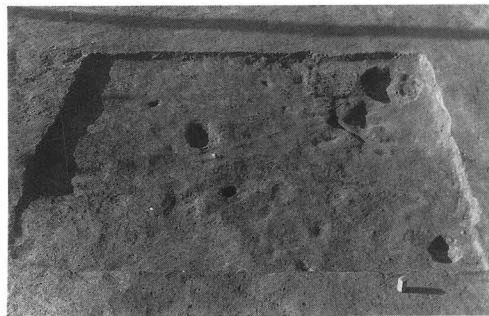
音羽遺跡 全体図



発掘調査風景



3号住居址遺物出土状況



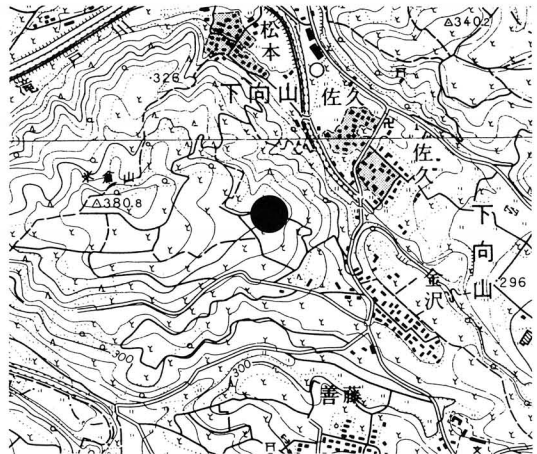
1号住居址



音羽遺跡 全景

9. 米倉山B遺跡

所在地 東八代郡中道町下向山字米倉山
3,911-6他
事業名 米倉山ニュータウン整備事業
調査期間 1992年4月14日～1993年3月19日
調査面積 7,000㎡
担当者 坂本美夫、一瀬新一郎、森原明廣、
早川典孝、高橋みゆき



米倉山B遺跡 位置図

曾根丘陵の一角に位置する米倉山山頂は、標高380.8mを測る。米倉山は、東から西に流れる滝戸川と、南から北に流れる七覚川に挟まれている。調査は昨年度開始され、今年度は2年度目となる。調査位置は、米倉山山頂から東南東の尾根に所在し、標高340mから350mにかけての地点である。

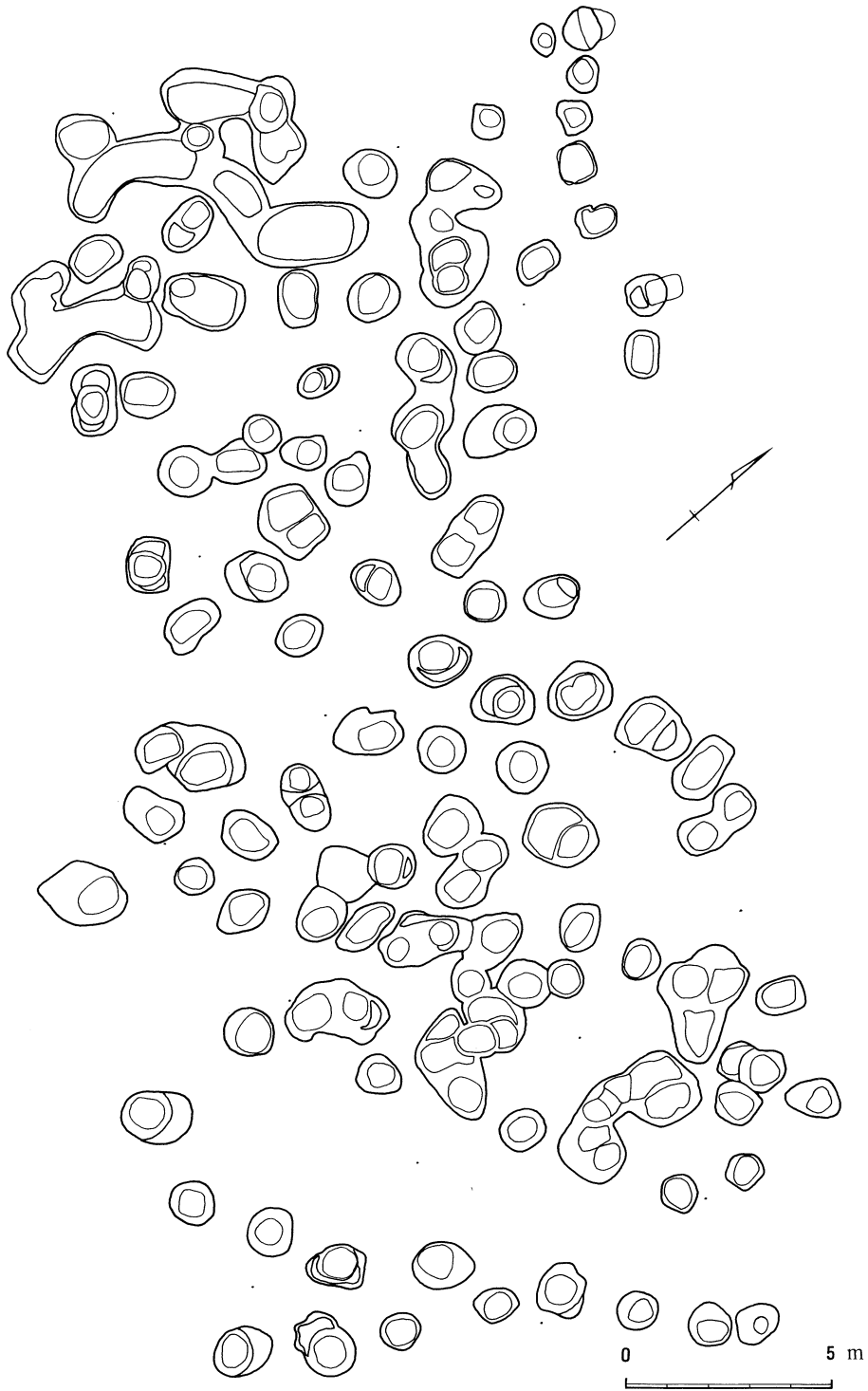
今回の調査では、弥生時代末から古墳時代初頭の所産であろう住居址19軒、古墳2基と墓壇153基および芋穴43基が確認されている。また中央部では、東西に走る自然谷が確認されている。

住居址は、南緩斜面から平坦部にかけて集中している。形態は方形のものが多く、これに円形および楕円形の住居址の存在も確認されている。また、重複する住居址が4箇所存在し、住居址の多くは接近している。遺物としては、弥生時代中期の条痕文系の土器片や弥生時代後期から古墳時代初頭の土器片などが出土している。

調査区の中央付近には2基の古墳が存在する。1号墳は、墳丘、周溝、石室が全く痕跡をとどめておらず、大きさは不明である。直刀、切子玉、須恵器の破片が出土している。2号墳は、1号墳の南側に位置し、直径20m前後を測る円墳である。墳丘のほぼ中央に、南北に約6.5m、東西に約3.5mの掘り方が確認され、横穴式石室の側壁と敷石の一部が残存している。石室内からは金環、鉄鏃などが、周辺からは須恵器の破片などが出土している。これらの出土遺物から、時期的には古墳時代後期の所産と考えられる。

また調査区の北側付近からは、江戸時代中期以降の墓壇153基を検出した。これらの墓壇は、径が90cm前後の円形を主体として、縦70cm、横1m20cm程度の方角のものも存在する。副葬品として、キセル、寛永通宝、漆器（漆膜片のみ）、かわらけ、陶磁器が多く見られる。その他、火打金、水晶、くるみ殻、櫛、かんざし、飾り金具などを伴うものもある。

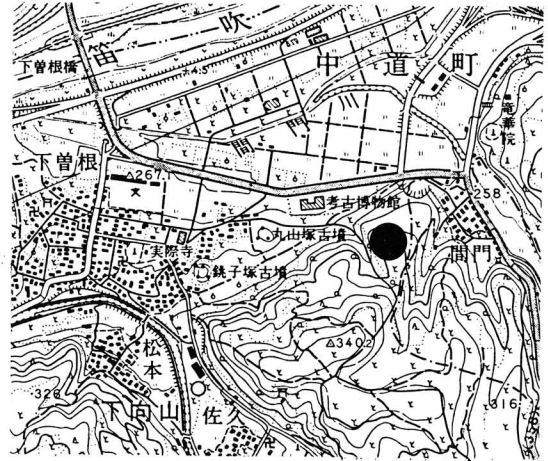
その他、特筆すべき遺物として、調査区の北東部から、縄文時代早期のいわゆる「トロトロ石器」が出土している。また、2号墳東側の自然谷からは、王莽銭（中国の新代に鑄造：初鑄A.D.14）が出土している。



米倉山B遺跡墓壙配置図

10. 東山北遺跡

所在地 東八代郡中道町下向字東山
事業名 甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備
調査期間 1992年5月6日～10月2日
調査面積 3,000㎡
担当者 末木 健、野代幸和



東山北遺跡 位置図

大丸山古墳を西に仰ぐ東山北遺跡は、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備に伴い、1990年度から3次にわたり発掘調査を行ってきた遺跡である。立地的には、甲府盆地東南部の曾根丘陵のほぼ中央付近にある舌状台地の先端部の北側斜面、標高約300mに位置している。本遺跡周辺には、銚子塚古墳・丸山塚古墳・上の平遺跡等多くの遺跡が存在しており、これらとの関連性が窺える。

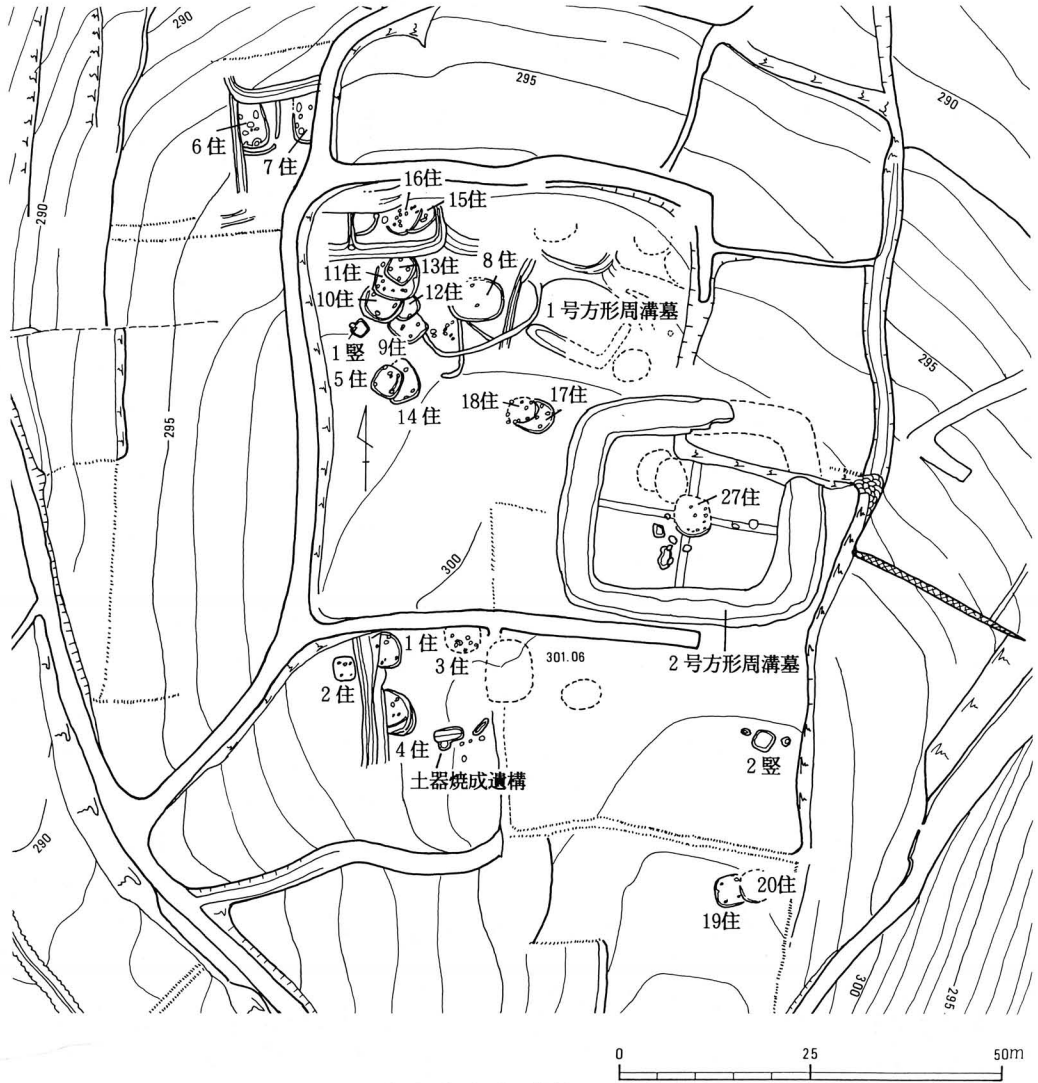
今回の調査に至るまでに確認された遺構は、弥生時代後期の住居址17軒、土器焼成遺構と竪穴状遺構が各1基、溝状遺構が14条、土坑・ピット群等である。今年度の調査では、弥生時代後期の住居址10軒、古墳時代前期の住居址1軒、このほかプランのみ確認して保存することになった住居跡状の時期不明遺構6軒、古墳時代前期の方形周溝墓2基、竪穴状遺構1基、土坑12基等が確認できた。また、出土遺物については、旧石器時代の石器、縄文時代早期から中期にかけての土器・石器類、弥生時代後期の土器・石器・青銅器類、古墳時代前期の土師器・鉄器類、古墳時代後期の須恵器が発見できたが、時期的に見た遺跡の中心は、発見遺構が示すように弥生時代後期から古墳時代前期である。

発見した住居跡の大部分は耕作による削平で、覆土の多くが失われていたため出土遺物は僅かであったが、第2号方形周溝墓の方台部中央に位置する第27号住居跡からは、北陸系の甕形土器を模倣したものが出土した。この住居の覆土には多量の焼土と灰、炭化した籾殻などが混入しており、焼失したものと思われる。

方形周溝墓については、昨年度の表土削除であらかたプランが確認されていた第2号墓の調査を行った。その結果、東西約36m、南北約31mの規模を測り、県内で最大クラスのものであることが明らかとなった。周溝の幅5～6m、深さは最深部で約1.8mで、ブリッジを設けない全周するタイプのものである。主体部は発見できなかった。耕作によって削り取りの著しい北溝を除いては、各溝で土坑状の掘り込みがある。遺物については、この周溝の底から器高10cmと器高12cmの赤彩塗布された高杯、推定器高28cmのS字状口縁台付き甕、北陸系の土器を模倣したもの、土製の勾玉や管玉、鉄製の鋤・鍬先、銅製の環・鏃などが伴って出土していることから、時代的には古墳時代前期に築造されたものと考えられる。

今年度の調査で得られた成果の概略は以上である。弥生時代後期に営まれていた集落の廃

絶後、古墳時代にはいって方形周溝墓が造られ、墓域化したことが明らかとなった。来年度以降は調査区東側の調査を行う予定である。



東山北遺跡 全体図



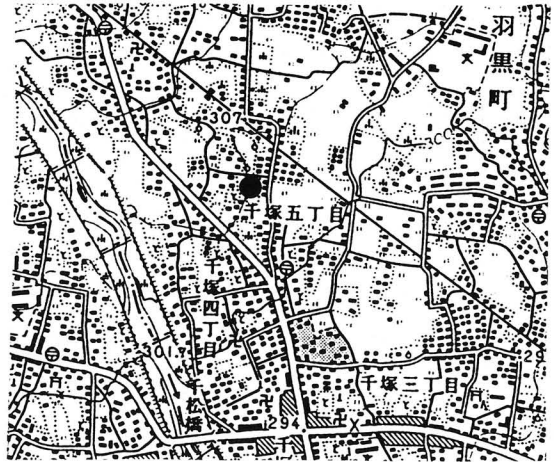
調査状況



第2号方形周溝墓近景

11. 榎田遺跡

所在地 甲府市千塚5丁目9番地内
事業名 ツリータウン千塚団地建設事業
調査期間 1992年4月22日～11月27日
調査面積 3,400㎡
担当者 高野玄明、橋田重男



榎田遺跡 位置図

荒川の流路にそって、形成された带状微高地上に位置する榎田遺跡は、1985年度に甲府市教育委員会が行った遺跡分布調査により確認された遺跡で、標高約305mを測る。千塚地区は甲府市域でも遺跡の密集地域であることが知られている。ツリータウン千塚団地建設に伴う発掘調査で、昨年度試掘調査を行った結果、調査区全体に及び、遺構・遺物が確認されたため、今回の本調査に至った。

今回の発掘調査によって確認された遺構は、住居址28軒・方形周溝墓4基・土坑114基・掘立柱建物址2棟・溝状遺構3基が検出されている。住居址は、古墳時代後期（鬼高）の住居址が17軒と最も多く、弥生時代後期3軒・古墳時代前期1軒・奈良時代～平安時代7軒で該期の集落が存在していたことが確認された。古墳時代後期（鬼高）の住居址については、大型のもので7m四方、小型のもので3m四方の方形を呈し、カマドは、住居址の北側に構築されている。出土遺物については、カマド脇に坏・甕・高坏など数多くみられ、砥石・紡錘車・土製スプーン・土鈴などの特殊遺物も出土している。方形周溝墓は4基確認されており、古墳時代初頭に築造されたものと思われる。1号方形周溝墓は南北15m、東西14mを測り、南側にブリッジが見られる。遺物も有段口縁壺・ひさご壺・台付甕など完形品が周溝覆土中位から出土している。2号方形周溝墓は西側が調査区外にのびるため推定ではあるが、約11m四方の規模をもつ。東側コーナーには、S字状口縁台付甕・器台・小型壺が集中しており該期の祭祀の在り方が窺える。3号方形周溝墓は2号方形周溝墓同様、西側が調査区外にのび、全容は不明であるが南北12mを測り、周溝墓南東では周溝内に落ち込みが見られ、底面直下に台付甕が出土しており、周溝内埋葬の可能性もある。4号方形周溝墓は13m四方で西側のコーナーにブリッジが見られる。各周溝墓とも主体部の確認はできなかったものの、甲府市域で方形周溝墓が検出されたのは2例目で、出土遺物と共に県内でも貴重な資料となろう。

千塚地区は、『甲斐国志』に「無名ノ古塚多シ破壊シテ今分明ナラズ」とあるなど、加牟那塚を中心として相当数の古墳が存在していたと思われる。古墳群と古墳を築いていた人々の集落との関わりについては過去、本地域で発掘調査が行われなかったこともあり不明な点が多かったが、今回榎田遺跡の調査により、古墳時代後期を中心とした集落が存在していたことが確認できた。今後、古墳と榎田遺跡の関わりについては、究明していかなければならない課題だろう。



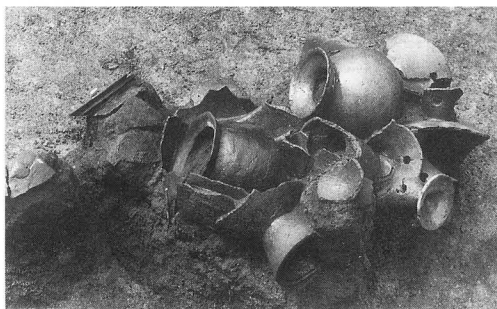
榎田遺跡 全体図



発掘調査風景



20号住居址遺物出土状況



2号方形周溝墓遺物出土状況

12. 油田遺跡

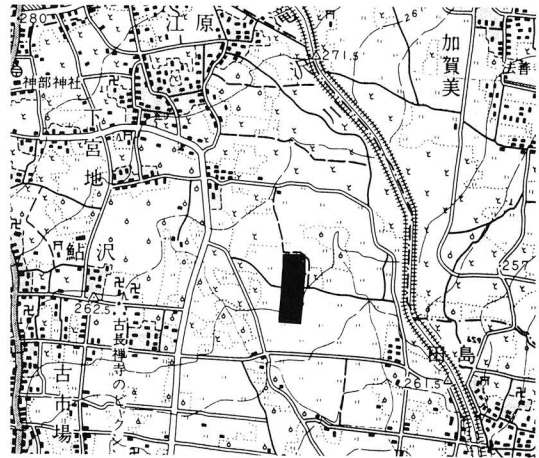
所在地 中巨摩郡甲西町江原字油田
149-1 他

事業名 一般国道52号(甲西バイパス)建設

調査期間 1992年9月14日～12月28日

調査面積 II区3,540㎡ IV区4,400㎡(3,176㎡)

担当者 II区 吉岡弘樹、平山 優
IV区 保坂和博、松土一志



油田遺跡 位置図

油田遺跡は、甲府盆地西部を急激に釜無川に向かって下る滝沢川によって形成された小扇状地扇端部の標高259mにあり、北に向河原遺跡、南に中川田遺跡と接する位置にある。

今年度の調査は、南よりⅠ～Ⅳと設定された調査内、Ⅱ区とⅣ区について実施された。低湿地調査特有の排水対策としては、調査地の周囲に長さ4mのシートパイルを打ち込み、内側には法面の崩落防止のために、約45°の勾配をつけた排水路を設置した。更に、釜場をコーナー部分の2箇所に設け集水効果を高め、ポンプによる排水を常時行なった。

Ⅱ区では2面の文化層が確認された。第1面は表土下約2.3mより確認されたが、上層を覆う氾濫による礫層の堆積時にひどく荒らされており、水田経営の有無については不明である。第2面は、第1面の直下であり、上記した礫層の影響を部分的に受けているが、比較的安定した堆積を見せている。遺物は、調査区北側に集中し、小型壺等が検出され祭祀を行った可能性を高めている。時期については、第1・2面共に古墳時代～平安時代に比定できよう。

Ⅳ区はⅡ区の北側に位置し、2面の文化層が確認された。第1面は表土下約1.8mより検出され、北部は西から東へ向かう氾濫による礫層の堆積により削られているが、比較的安定した堆積状況であり、緩やかに北西から南東に傾く等高線を描いている。溝状の窪地が検出されたが上層に見られる氾濫の影響と考えられ、第1面では遺構は確認されなかった。遺物は第1面直上より条痕文系の甕が出土し、器形および施文の様相が弥生時代前期後葉から中期初頭を示唆しており、第1面がほぼ同時期になると考えられる。また第1面直上のシルト層には多量の植物繊維や木の実などが検出されている。第2面は第1面より10cmのシルト層を狭んで下層に当たり安定した堆積を見せているが、北部はやはり氾濫による礫層の影響を受け削られている。遺物・遺構は検出されなかった。第2面の下層では青灰色粘質土を挟んで多量の植物繊維を含む層が確認されたため調査区の一部をこの面まで掘り下げたが遺物・遺構は検出されなかった。第2面および第2面下層(植物繊維を含む層)は共に時期不明である。

なお今回の調査の問題点として湧水が非常に多いために調査の進行が妨げられた点があり、今後の調査においては排水対策の強化の必要性が挙げられる。



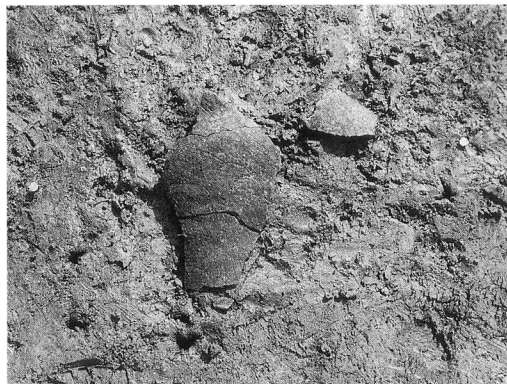
II区 第1面 完掘状況



IV区 第1面 完掘状況



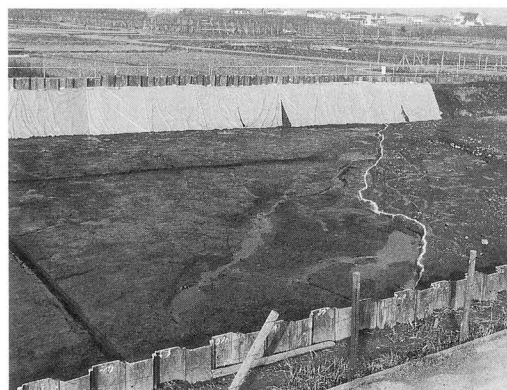
II区 第2面 完掘状況



IV区 第1面 土器出土状況



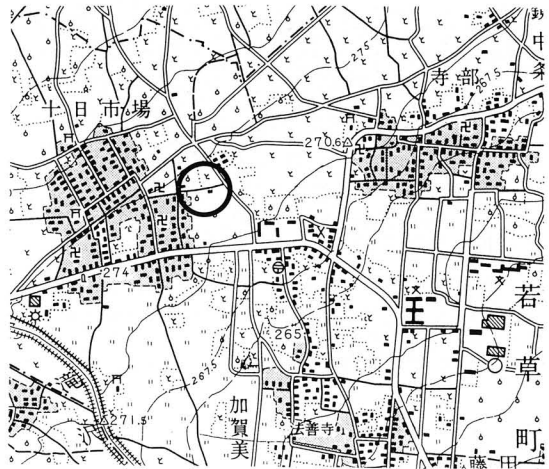
II区 降雨・涌水による調査区水没状況



IV区 第2面 完掘状況

13. 新居道下遺跡

所在地 中巨摩郡若草町十日市場字新居道
下1476他
事業名 一般国道52号（甲西バイパス）建設
調査期間 1992年4月17日～9月18日
調査面積 1,500㎡
担当者 米田明訓、澤登正仁



新居道下遺跡 位置図

本遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高270mに立地する。

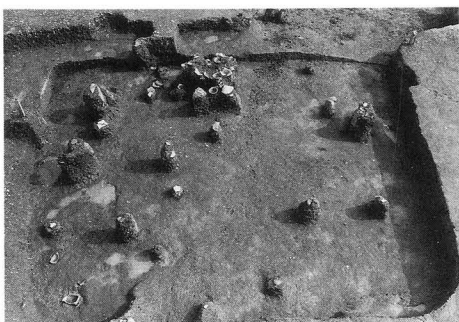
遺跡は扇端部に形成された北西から南東方向へのびる微高地上に展開する。過去に実施された試掘調査の結果では、遺跡北側では御勅使川の氾濫で運ばれた礫層が厚く堆積し、南側では泥炭層が堆積する。

昨年度より実施されている本調査は、県道葦崎・楡形・豊富線より北側を東西に走る町道を境に、南側を1区、北側を2区と二つの区域に分けて調査を実施している。すでに昨年度調査した1区では、奈良時代と平安時代の住居址および近代の粘土採掘坑等が、2区では奈良時代から平安時代の住居址・掘立柱建物址・土坑等が多数確認され、峡西地域では初めて当該期の大規模な集落の存在が確認された。

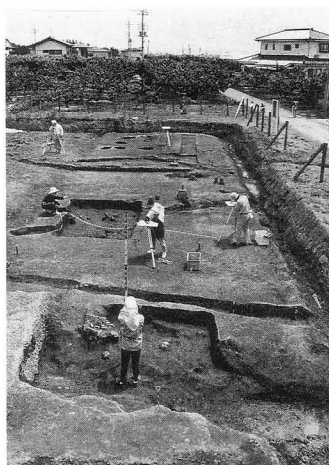
本年度は2区のほぼ全域（未買収地域を除く）を調査した。確認された遺構は、古墳時代から平安時代までの住居址21軒・掘立柱建物址1軒・土坑108基・溝状遺構8条・河川跡1であるが、土坑群の中には上記の確定したものの他に、柵列跡や掘立柱建物址と考えられる配列をしているものもあった。溝状遺構の中には、深さ約2m、幅約1.5mの大きさのものがあり直線で約20m確認した。昨年度・本年度の合計は住居址44軒・掘立柱建物址4軒・土坑149基・溝状遺構15条・河川跡2であった。またプラン確認時において、おおかたの住居址内覆土は土砂および礫が入っており御勅使川の氾濫の規模が想像できる。

古墳時代から平安時代の遺構から出土遺物の大半は、土師器・須恵器の土器類と灰釉陶器類であった。中でも土師器はそれら全体の八割以上をしめている。土師器の中では古墳時代後期の特徴を持つ甕、甌、坏等が出土している。このようなことから、この土地の村落の活動が古墳時代後期には開始されていたことは確実であるが、2区南西端の7号溝の中からは古墳時代前期の特徴を持つS字状口縁台付甕の破片も出土している。また墨書土器数個体、甲斐型土器の坏も10数個体住居址から出土しているので、これらの編年、型式分類等の作業が進めば村落の活動年代がおおよそ確定できるであろう。

特殊遺物としては鉄鏃・釘・鎌などの鉄器類および鉄滓、石帯・石錘・砥石等の石製品、水晶、植物遺体（桃の実）等であった。



36号住居址遺物出土状況



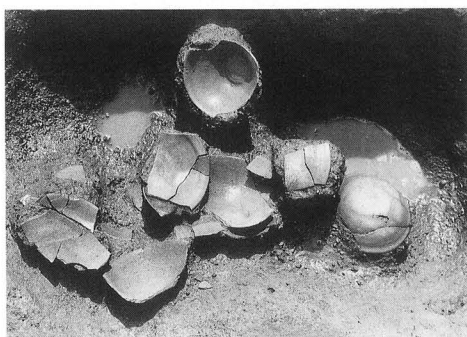
2区 南端実測風景



15号溝発掘風景



44号住居址カマド付近遺物出土状況



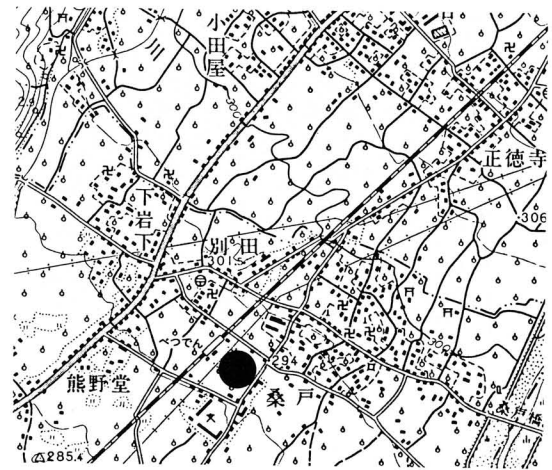
76号土坑遺物出土状況



2区 中央部

14. 桑戸 (後町) 遺跡

所在地 東山梨郡春日居町桑戸字五反田
661-1 他
事業名 一般県道下神内川石和停車場線改良工事
調査期間 1992年12月1日～12月15日
調査面積 200㎡
担当者 末木 健、野代幸和

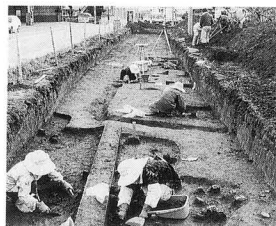


桑戸遺跡 位置図

J R 中央線の別田駅東側100mにある本遺跡は、甲府盆地東南辺を流れる笛吹川と、秩父山塊の南端部にある冑山・棚山・御室山（鎮目山）の裾を流れる平等川との間に形成された、微高地上に立地する。遺跡は中央線に沿って北東から南西方向に長大な面積を有し、白鳳時代寺院跡である寺本廃寺や、奈良時代の国庁跡と目されている国府へと連続しているものと思われる。

本調査対象とした面積は4m×100mであるが、試掘の結果その内の約半分が、遺跡の残存状態が良く、残りは天地返しによる攪乱の為に、本調査対象外とした。

検出された遺構は、住居址5軒、近代の攪乱による竪穴遺構1基、溝2条、土坑29基である。住居址は完全に発掘されたものは無く、いずれも3分の1～4分の1程度である。古墳時代中葉の3号住居址以外は、北側辺中央に粘土構築の竈を持ち、土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土していることから、奈良時代末～平安時代前期に属する。なお、2号溝は奈良時代末、1号溝は近世と考えられる。また、住居址や溝の覆土中の出土遺物には、弥生時代後期・古墳時代前期～後期の遺物が多く含まれており、その時代から集落が継続していたものと思われる。



調査風景



遺跡全景



2号住居址



4号住居址

なかかわだ
15. 中川田遺跡

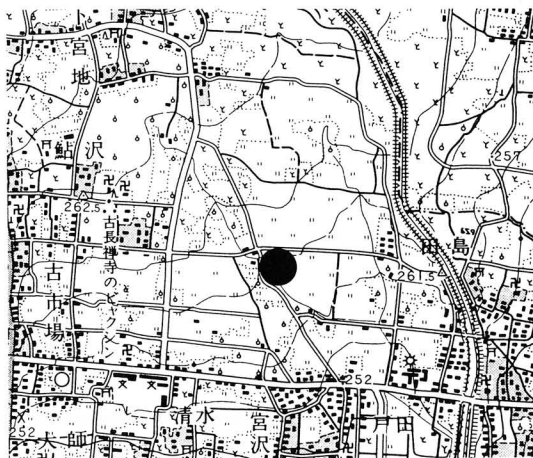
所在地 中巨摩郡甲西町田島字中川田527
他

事業名 一般国道52号（甲西バイパス）建
設に伴う事前調査

調査期間 1992年6月1日～9月12日

調査面積 3,500㎡（1,750㎡×2層）

担当者 吉岡弘樹、平山 優



中川田遺跡 位置図

中川田遺跡は、甲西町地内を南北に走る国
道52号線と、楡形山を水源とし、小扇状地を
形成しながら釜無川に下る滝沢川に狭まれた位置にあり、標高256mを測る。

第1水田面では、上層との一体化がひどく、遺構が検出されたのは中央部より南西に限られた。大畦畔は幅80cm、高さ15cmを測り、土手状遺構に接続する形状をとる。土手状遺構は、調査区の南側をかすめるように確認された旧河川と水田を隔絶するために造られたもので、幅約2m、高さ40cmの扁平な蒲鉾状を呈する。この他に溝1条、杭列3条が検出された。

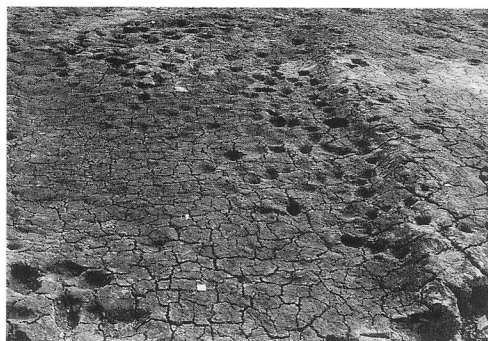
第2水田面からは、調査区南側を中心に、幅20cm、高さ10cmの小畦畔が検出され、遺物は、当時の殺馬儀礼？の一端を窺わせるものとして、各所から獣骨（馬）が約30点（3頭分）が出土した。またこの他に、水田面直上より鉄鏃が2点検出された。

第3水田面は、第2水田面の直下であり、今まで水田経営がなされていなかったと想定されていた黒褐色腐食土層に造営されており、南北に伸びる大畦畔（幅80cm、高さ20cm）に小畦畔（幅30cm、高さ10cm）が東西に、それぞれ接続する形状が明確に確認できた。しかし、当面の確認された範囲は、北東部は旧河川によって削平され、南西部は谷状地形を形成して急激に下るため非常に狭いものであった。

上記された3面の水田の経営時期については、時期決定につながる資料の出土が乏しく、現段階では、中世から江戸期末以降という大枠でしか捉えられない。



第1水田面完掘状況



第3水田面大畦畔検出状況

16. 二本柳遺跡

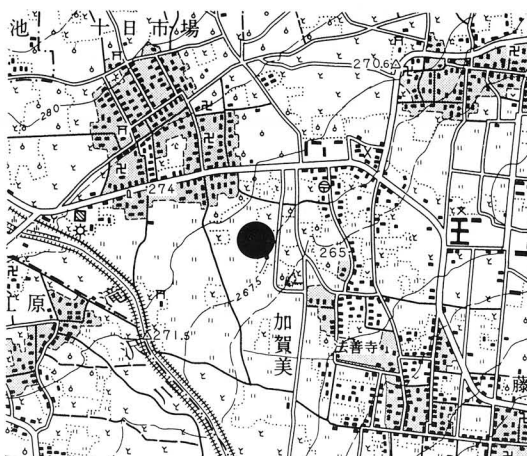
所在地 中巨摩郡若草町十日市場字二本柳
186他

事業名 一般国道52号（甲西バイパス）建設

調査期間 1992年4月14日～12月24日

調査面積 16,800㎡（8,400㎡）

担当者 中山誠二、小林健二



二本柳遺跡 位置図

二本柳遺跡は、甲府盆地西部を流れる御勅使川と滝沢川がつくる扇状地の扇端部、標高260m前後に位置している。

平成3年9月から始まった本調査では、1区で江戸時代末の水田、2区では平安時代末、戦国時代の水田、井戸、溝が検出されている（当センター『年報8』参照）。2年次の今年度は引き続き2-B区、3区、4区の調査を行った。各区の水田は上層が戦国時代のもの、下層が平安時代末のものであり、それ以前の遺構は確認されなかった。

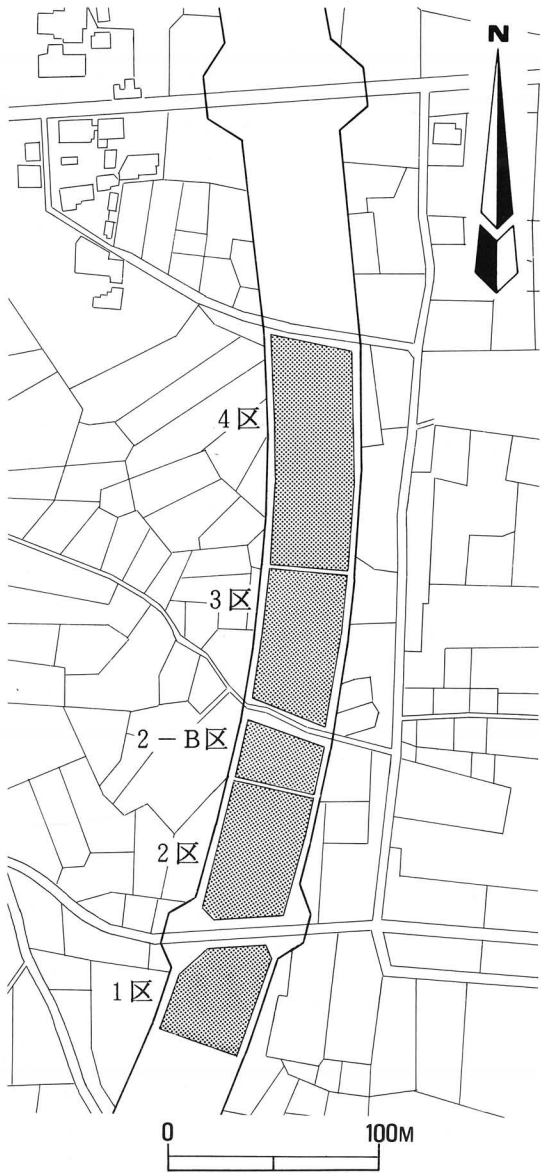
2-B区は2区と同様3層の調査を行った。第1層目では、礫層の上から掘り込まれた溝、木棺、井戸が検出された。中でも注目されるのは木棺で、蓋板には梵字が、側板には真言密教で用いられた偈文が書かれ、稲穂をのせたかわらけ、古銭6枚、数珠が副葬されていた。また溝は2区から続いているもので、これらの状況から、近在する法善寺の子院であった福寿院の寺域境を示すものである可能性が大きい。礫層下のシルト層上に造られた上層水田は、杭で補強された大畦畔を中心に、1枚の水田の面積が15×10mのものから5×3mのものまでが存在する。水田面には足跡が、水口には鋤痕がはっきりとみられる。粘土層上に造られた下層水田は、1枚の面積が上層水田よりさらに広く15×15mの大区画を有するものが存在する。大畦畔は上層水田とほぼ同じ位置にあり、上層水田はこの水田をもとにして造られたと考えられる。

3区の上層水田は、17枚の水田面の遺存状況がきわめて良好で、水田面は不整形な区画を呈しているが、水を温める施設（ヌルメ）を伴い、傾斜した地形に沿って南北に階段状に造られている。足跡が多数検出され、農作業時の歩行の状況がよくわかる。水田面からは、かわらけ、斎串、馬の骨が出土している。下層水田は6枚の水田面が検出されたが、調査区北側は畦畔等の施設が確認されず、水田面として利用されなかった可能性もある。水田面からは、青磁碗の破片、斎串、馬の歯・骨、小動物の下顎骨が出土している。

4区の上層水田は層位的にとらえにくく、畦畔・水田面の検出が困難であった。下層水田は1枚の面積が10×10mでほぼ正方形に区画されている。水路を伴う大畦畔が東西に走り、水田面からは青磁碗の破片、漆椀、斎串、鏝形木製品、鉄製品、馬の歯・骨が出土している。

さらに地表下約1.8mで古墳時代初頭の、約3.5mで弥生時代中期の遺物包含層が確認された。また両包含層の間には厚さ約1.5mの礫層が堆積し、礫層中より梯子（弥生時代末～古墳時代初頭）の他、人為的に加工された木製品が出土している。

2年次にわたる調査からは多くの成果が得られ、今後峡西地域の条里型土地区画の起源や土地制度の変化、水田での祭り、中世の葬送儀礼の実態が明らかになるであろう。



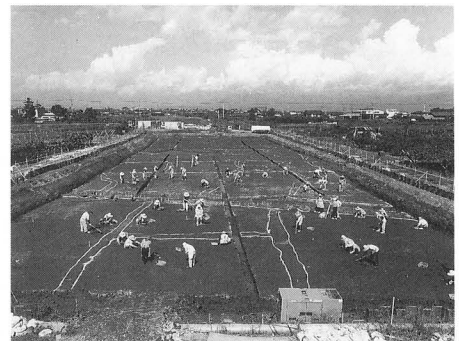
調査区域図



2-B区 1号木棺出土状況



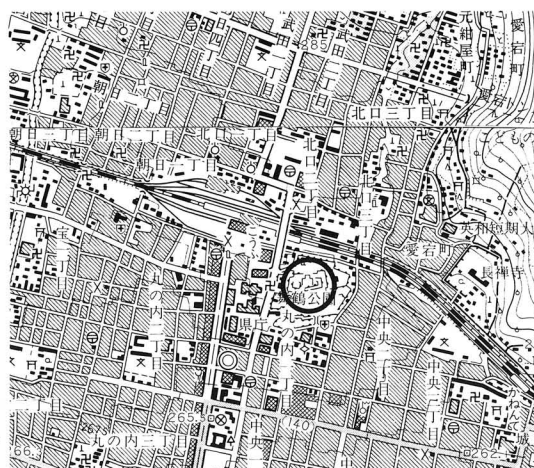
3区 上層水田



4区 下層水田調査風景

17. 甲府城跡（県指定史跡）

所在地 甲府市丸の内1丁目5番地内
事業名 舞鶴城公園再整備事業
調査期間 1992年4月13日～1993年3月31日
調査面積 4,700㎡
担当者 八巻与志夫、村松利恵子



甲府城跡 位置図

県指定史跡甲府城跡の石垣修復工事に伴う発掘調査は今年で3年目である。以下調査場所ごとにその概要を述べる。

1 数寄屋曲輪調査

数寄屋曲輪西石垣の修復工事に伴う本年度の調査は、曲輪南端の櫓台（絵図による二重櫓が存在）部分と石垣及び鍛冶曲輪へ通じる石段について実施した。櫓台については、石垣解体により影響を受ける約120㎡を調査し約40cm×30cmほどの平石が4石検出された。櫓の柄柱を受ける礎石の可能性が考えられるが、4石の配置は各々であるうえ、櫓台を囲む安全防護柵のコンクリート基礎や樹木の度重なる移植によって攪乱を著しく受けており、明確な遺構は確認できなかった。曲輪と櫓台の境部分の入隅石垣は逆算木積みではなく、櫓台を構成する石垣に曲輪側のそれがぶつかる形で積まれていたが、解体中の調査で櫓台の石垣が入隅部分より奥に4mにわたって検出された。数寄屋曲輪西石垣の南端が櫓台の石垣を半分近く埋めているこの結果と、北端は稲荷曲輪南石垣の出隅を埋め殺す格好で積まれていることから、数寄屋曲輪は、稲荷曲輪と数寄屋櫓台の間に石垣を積むことによって後で築かれたと考えられる。ただし石積み技術に著しい差は見られないためその時間的差異はごく短いものであったと思われる。

2 本丸櫓北石垣下の調査

昨年度までに金箔瓦が出土している人質曲輪北石垣下の西側部分の継続調査である。これまでに金箔瓦が出土した最下瓦層からは、五三桐鬼板瓦の花部分や獅子を模した瓦（図版）が出土した。この瓦は目や髭の作風が既に出土している鯨（図版）等に近似しており、目周辺には金箔の付着も認められ、やはり築城当初桃山期のものと考えられる。この瓦は、犬山城天守閣に見られる桃の実をかたどった瓦と同じく隅蓋瓦の上に飾られていたと推定される。根石前面からは、ほぼ完形の鏝1点を含む黒曜石十数点がまとまった範囲から出土しており、人質曲輪と本丸を構成する東西約85mの高石垣を積み出す際に、どこかの遺跡からその認識無くして土を運び込み、根石の前面盛土に使用した築城期の様子がうかがえる。

3 天守台調査

天守台中央西側の出隅修復工事に先立ち、天守台北側半分の発掘調査を7月から1カ月間と10月1カ月間実施した。表土から20cm程度で黄褐色粘質土層が10～20cm程度の厚さで転圧

された状態で検出され、この下が栗層となっていた。表土は植木の植栽時の土と芝の目土及び園路整備の為の砂で構成されている。黄褐色粘質土層は石垣内部への雨水の浸透を防ぐための防水層であろう。遺物は表土中から出土した瓦破片のみであったが、後世の攪乱のため一部栗層上面からも出土した。また、約40cm四方に矢で割られた礎石と思われる石が検出されたが、原位置は保っていないかった。

4 本丸調査

本丸腰石垣修復工事に先立った調査では、南側腰石垣の根石及び毘沙門堂跡の検出に努めた。しかし、宝永年間の絵図に記されている石垣の高さと曲輪の標高との比較から本丸の地盤は江戸時代より約1m下がっていることが明らかとなり、この事実は本丸腰石垣に設置されている排水暗渠のレベルからも確認された。そのため、江戸時代の遺構はすでに消滅していると考えられ、調査でも検出されなかった。本丸を構成する地盤は一条小山の地山であることが確認され、天守台の石垣も地山の上に構築されていることとなる。なお、この本丸腰石垣調査は現在も継続中である。

5 稲荷門調査

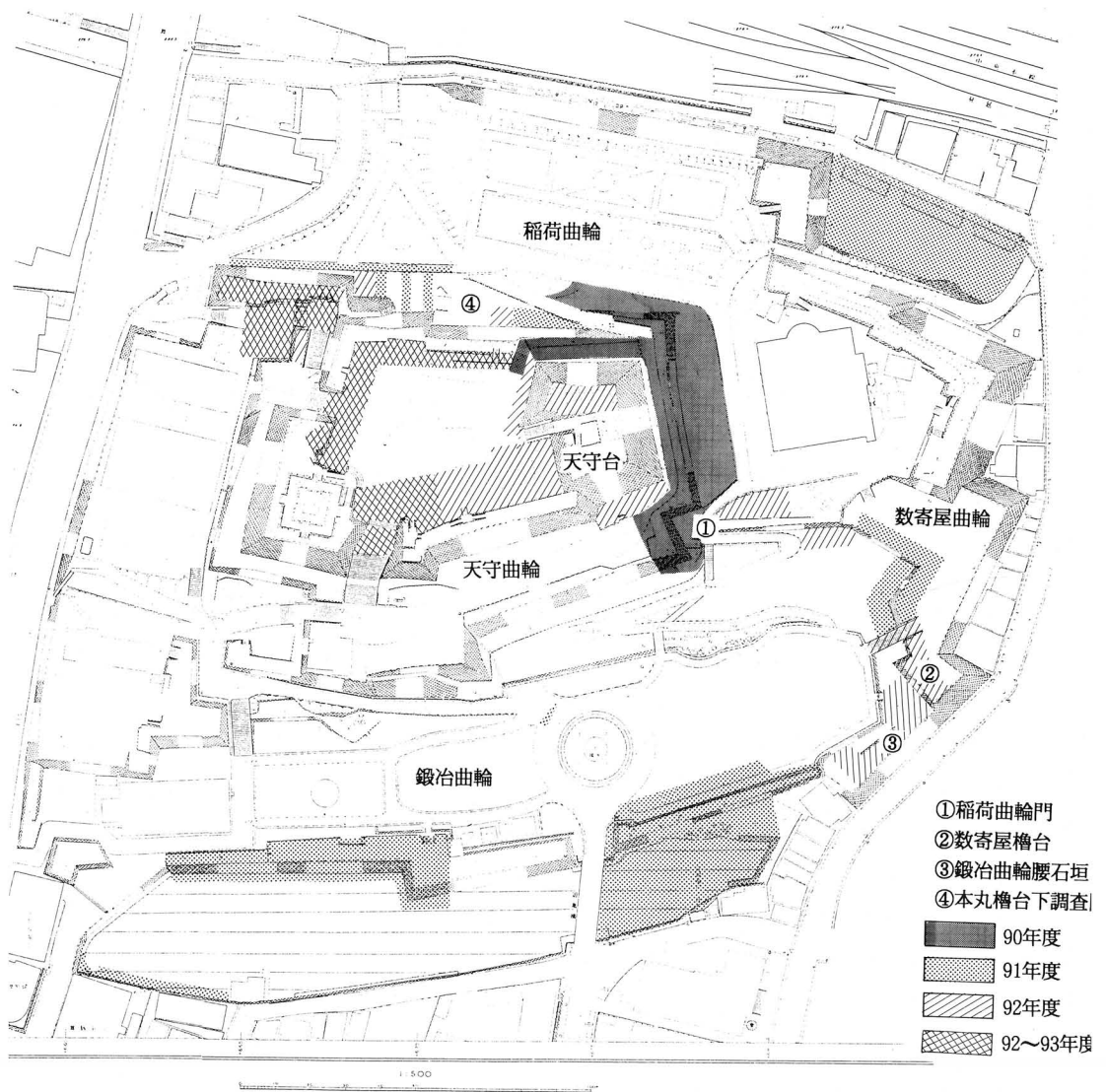
稲荷門跡の調査では、明治以降に崩された石垣の根石を検出して、門の東側袖石垣を復元するためのデータを得ることを目的とした。腰石垣調査では、東西3m以上南北5m以上の瓦溜が検出された。この中に廃棄された瓦の中から1点朱漆の付着した瓦が出土している。稲荷門から東に伸びる石垣の根石だし調査中に、稲荷曲輪からの水を南に抜く暗渠が検出されたが、この暗渠は同様な機能で復元することとした。

6 石垣実測調査

従来から解体する石垣の立面図を作成して、調査と工事に活用している。しかし、この図面では石垣の特徴が最も顕著となる隅部分は記録されないため、今年度から隅部分の内角の2等分線の延長線に直行する方向から撮影した図面を作成することとした。

7 石材調査

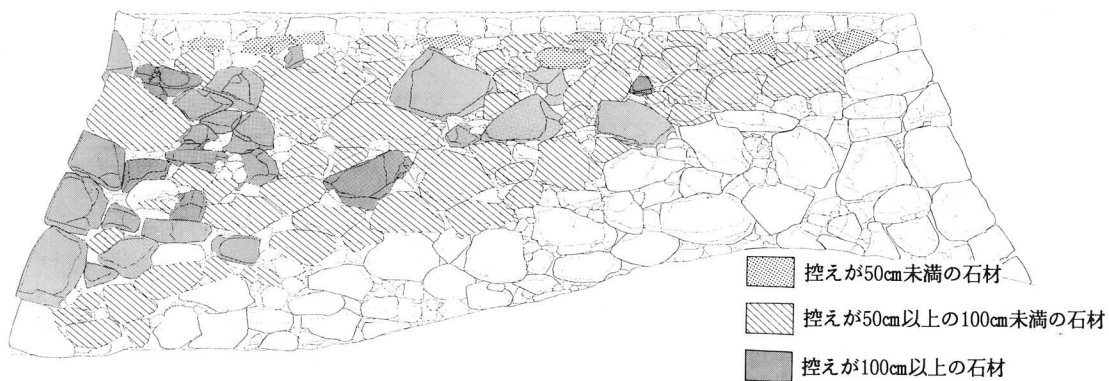
本調査では、解体修復される石垣の石材個々について、面の縦・横・控えの長さや矢穴の大きさ及び数、そして重量について計測調査を実施している。この調査の目的は、穴太積み石垣の特徴である大小の石材の配置バランスや控えの長い石材の使用について、具体的数値で表し石垣の積み方の傾向をつかむことにより、今後の修復工事に活かす点にある。本年度は、堀の一部、数寄屋曲輪西石垣、稲荷曲輪南石垣、鍛冶曲輪南東腰石垣の調査を実施した。これまでの調査で言えるのは、出隅を構成する石材の左右数石は控えの長いものが配されている点である。図版は調査結果を図化したものだが、隅石の脇には面が小さくても控えは長い石材が積み込まれていることが分かるであろう。腰石垣の調査はまだ一か所のみであるが、高石垣に比べ面の大きさに対して控えが短い石材が多かったが、石垣の高さによっても石材の使い方に相違があると考えてよいであろう。今後さらに調査を重ね、石垣とその積み方についても考察を深めて行きたい。



年度別調査位置図

8 石垣修復工事について

平成4年度に実施された石垣修復工事内容は、前年度からの継続で鍛冶曲輪南側の堀石垣と腰石垣200㎡及び鍛冶曲輪から数寄屋曲輪へ登る石段と稲荷門石垣150㎡である。稲荷門石垣修復工事では、石垣解体の番付作業時に特徴的な石材で再使用が可能なものには黄色の番付を、その他の石材には白色で番付し、黄色の石材は石材1石分程度の範囲で原位置に戻すことを原則とした。また、石材加工は極力避けて、可能な限り野面を出して施工することも現場で指示した。



石材法量図（数寄屋檜台石垣）



金箔鯨瓦



本丸檜北石垣下出土飾瓦



修復された稲荷門石垣

18. 古代官衙・寺院址詳細分布調査

所在地 ①東八代郡境川村大窪字温湯（ぬくゆ） 温湯遺跡

②東八代郡八代町永井 瑜伽寺

③山梨市七日市場 七日子廃寺

調査期間 1992年11月5日～24日

①11月5日～10日

②11月11日～18日

③11月19日～24日

調査面積 ①45㎡②120㎡③38㎡ 合計203㎡

担当者 末木 健、野代幸和

本年度は5ヵ年計画のうち3年目にあたり、上記3ヵ所の試掘・確認調査を行った。

①温湯遺跡

境川村の中心部である藤壘集落から、南東に御坂山地の鶯宿峠へ向かうと、虚空像山と猪山に挟まれて大窪集落がある。この集落は、名所山から流れ出した境川の扇状地扇頂に位置し、かつては、交通の要所としてさかえた。遺跡は集落の北側に位置し、標高520mの緩斜面に立地する。

本遺跡は、過去の耕作中に布目瓦や土師器が出土したことから、1987年度に県教育委員会による生産遺跡分布調査事業で、窯跡の確認調査が行われている。このときの調査では窯跡が確認できず、住居址や土坑が検出され、灰釉陶器・土師器・布目瓦が出土している。特に布目瓦は丸瓦の完形品が出土し、近くに寺院址の存在を想起させるに充分であった。

そこで、今回は道路より南側の、一段高い畑を中心にトレンチを3本設定した。1号トレンチからは平安時代の住居址が検出され、2・3号トレンチからは土坑が検出された。これらのトレンチからは、瓦の出土はなく、建物址と思われる柱址も検出されなかった。

②瑜伽寺

御坂山地から流れ出した浅川が形成した扇状地の扇中部に位置し、無碍山法雲院と号する臨濟宗寺院がある。寺伝では霊亀元年に創建された寺院で、薬師堂には白鳳時代～天平時代の塑像があったが破損しており、現在は東京国立博物館に保管されている。

調査地区は、瑜伽寺の西側に接した梅畑である。5本のトレンチを設定し、1号トレンチから布目瓦と石列が検出された。布目瓦は軒平瓦と平瓦破片である。軒平瓦は均整忍冬唐草文であり、奈良時代の製品と考えられる。この他のトレンチからは弥生時代～平安時代の住居址・土坑などと、それに伴う遺物が発見されている。

検出された石列は、現在の瑜伽寺の中軸線より約50mほど離れており、寺院址と関連ある

ものと考えられる。

③七日子廃寺

山梨市七日市場宮の平と塩山市三日市場字乙川戸前にまたがる遺跡で、旧来より布目瓦が採集されたことから、『七日子廃寺』の名称を持つ。笛吹川左岸の緩傾斜地、標高400m付近に立地し、七日子神社周辺からは縄文土器・平安時代土師器などが多数表面採集できる。

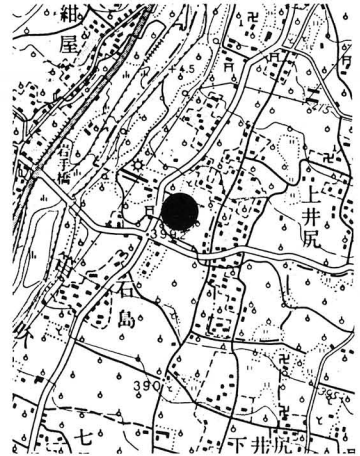
瓦は神社の北東部に分布しており、現在は桃・柿などの果樹園となっている。試掘調査は神社北東約100mの荒れ地に、4本のトレンチを設定した。しかし、瓦や寺院跡と思われる遺構は検出できなかった。



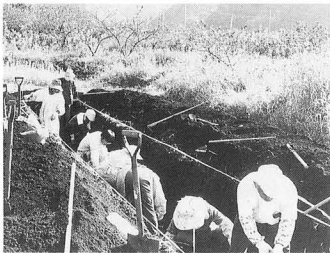
①温湯遺跡



②瑜伽寺



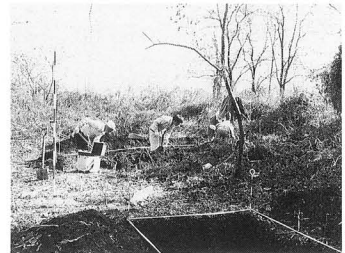
③七日子廃寺



1. 温湯遺跡第1トレンチ発掘状況



3. 瑜伽寺発掘状況



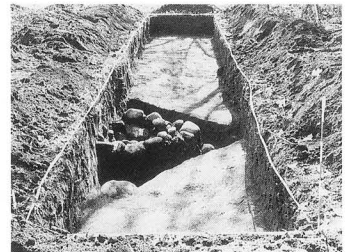
5. 七日子廃寺調査状況



2. 温湯遺跡第3トレンチ



4. 瑜伽寺出土軒平瓦



6. 七日子廃寺第1トレンチ

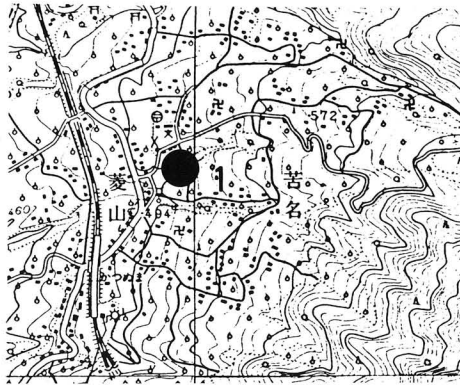
19. リニアモーターカー山梨新実験線建設に伴う試掘調査

所在地	①東山梨郡勝沼町菱山	調査面積	①1,200㎡
	②都留市小形山字大原溝上他		②1,500㎡（調査対象面積16,000㎡）
	③都留市小形山瀬木		③650㎡（調査対象面積7,000㎡）
調査期間	①1992年6月1日～6月12日	事業名	リニアモーターカー山梨新実験線建設
	②1992年9月21日～10月31日	担当者	保坂康夫、高橋みゆき
	③1992年12月17日～12月25日		

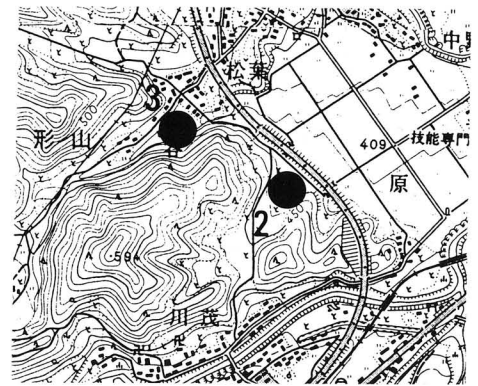
① リニア新実験線建設に伴うトンネル掘削土の廃棄場所予定地である菱山地区の遺跡分布確認調査を行った。当地は、長さ280m、幅約50mの谷間にあり、周辺の遺跡の状況や地形から遺跡の存在が予測されたため、幅1.5m、長さ6.5～46m、深さ0.1～2mのトレンチを43本設定し、遺構・遺物の有無を調査した。特に谷の高所では鉄滓が数点採集されたため、やや広範囲にトレンチを設定したが、明確な遺構は確認できず、遺物も検出できなかった。

② リニア新実験線の変電所建設に伴う揚久保遺跡の範囲確認調査である。試掘範囲は、調査の承諾が得られた3箇所の地域で行った。このため、調査地域を便宜的に、南側からA区、B区、C区とした。そして、A区に7本、B区に31本、C区には3本、合計41本のトレンチを設定した結果、A区では遺構・遺物とも確認できなかった。B区では、より高所の西端部で規則的に並ぶピットが4基と土坑が1基確認でき、C区でも土坑が1基確認できた。また、遺物はB区のみに見られ、西端部と東端部で、特に多くの縄文土器、土師器、陶磁器片が出土した。以上のことから、遺構・遺物が確認できたB区とC区を本調査の範囲とした。このうち、B区では、遺構が確認できた西側をB-1区とし、多数の遺物が出土した東側をB-2区とした。

③ リニアモーターカー山梨新実験線パネルヤード建設予定地における中谷遺跡の範囲確認調査である。当調査地は、揚久保遺跡と山を挟んで西側に対峙する。その山裾を流れる高川によって形成された南北にのびる谷は、現状では畝地と水田という段状の地形を呈している。その斜面の方向や水田の境に沿って、幅1.5m、長さ7.5～47.5m、深さ0.54～3mのトレンチを18本設定し、調査を行った結果、住居址と思われる掘り込みや集石土坑が2基、配石遺構と思われる大型礫の配列が確認できた。川沿いの低位面では遺構は確認できず、遺物も疎らに出土するだけであったが、高位面の水田部分では、縄文時代後期を中心とした遺物が多数出土しており、集落跡の存在が想定される。



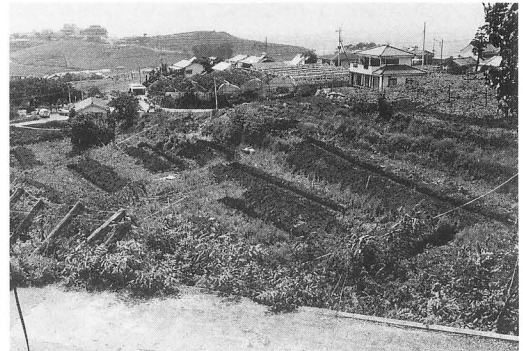
勝沼町菱山 位置図



都留市小形山揚久保・中谷 位置図



勝沼町菱山全景（北から）



勝沼町菱山近景（東から）



都留市小形山揚久保 A区全景（南から）



都留市小形山揚久保 B区調査風景（西から）



都留市小形山中谷全景（北から）

20. 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

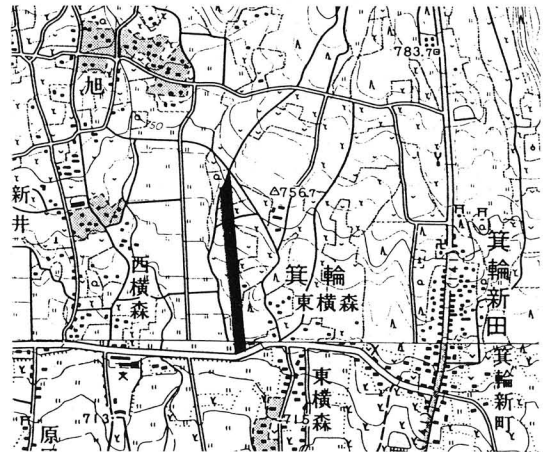
(1) 八ヶ岳広域農道試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町村山北割字社口地内

調査期間 1992年9月21日～9月30日

調査面積 104㎡ (約6,000㎡)

担当者 新津 健、三田村美彦



八ヶ岳広域農道試掘調査 位置図

広域農道建設予定地の内、社口地内の長さ約600mの地区を対象に、10～30m間隔で2

×2mの試掘坑を設定した。主に山林地帯のため人力によりローム面まで掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認を行った。試掘坑は26箇所を数える。なお西に接して縄文後期の配石址として有名な青木遺跡が所在する。

調査の結果、縄文時代中期の土器や平安時代の土師器が多量に出土した。特に縄文土器が顕著で、住居と見られる落ち込みや土壌・焼土が検出されている。遺跡の範囲については、今回の試掘対象地のほぼ全域に互っているものと見られ、大規模な集落址と判断できる。遺跡名は社口遺跡である。

(2) 今諏訪・北村線試掘調査

所在地 中巨摩郡白根町西野地区

調査期間 1992年10月13日～10月16日

調査面積 216㎡ (8,390㎡)

担当者 末木 健、野代幸和



今諏訪・北村線試掘調査 位置図

用地買収が完了している道路用地内に、幅1.5mのトレンチを20m間隔で、24箇所設定した。重機による掘削を行った後、作業員によって精査し、土層断面観察や遺構・遺物の存在確認を行った。

この結果、耕作土下には薄い黒褐色土があるものの、そのすぐ下には、砂利層が厚く堆積している。それぞれ地表下2m前後掘り下げたが、遺構・遺物は全く発見されなかった。

(3) 旭バイパス試掘調査

所在地 韮崎市神山町鍋山1297番地他

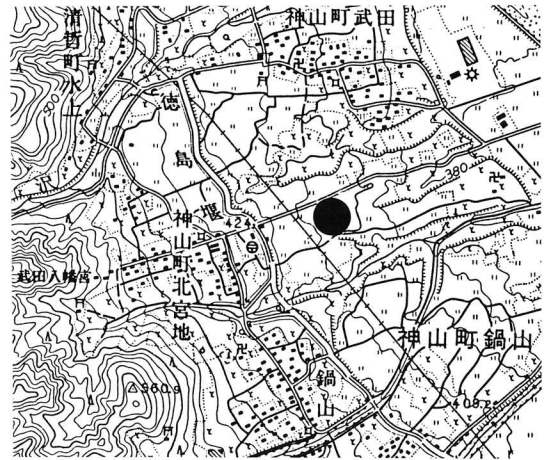
調査期間 1992年10月16日～10月22日

調査面積 40㎡ (2,600㎡)

担当者 末木 健、野代幸和

用地買収が完了している道路用地内に、幅2mのトレンチを10m～25mの間隔で、15箇所を設定し、重機によって耕作土を掘削した後、これより下層を人力によって精査し、遺構・遺物の有無を確認した。6号・9号トレンチを除いては、縄文時代から近世に至るまでの遺物が出土している。特に1号～3号トレンチ、11号トレンチからはやや遺物が集中して出土した。これら出土した遺物の大部分は磨滅が著しいものであった。

今回試掘を行った場所は、釜無川及びその支流によって形成された韮崎段丘上のほぼ中央に位置している。調査区はやや平坦な部分から東側へ下っていく斜面部の段々畑に立地している。この北側付近では湧水が認められ、この一帯は水田となっている。この調査地点の示す性格については、遺構を伴わず、遺物は前述のとおり磨滅しているものが多いことから、遺跡そのものは調査区西側の平坦部分に広がるものと推定され、出土した遺物についてはこの遺跡からの流れ込みと考えられるため、二次的な堆積による包含層が存在することが明らかとなった。



旭バイパス試掘調査 位置図



旭バイパス試掘調査風景

(4) 県営農林漁業用揮発油税財源身替農道試掘調査

所在地

①<境川工区>東八代郡境川村大黒坂字中原・八代町米倉

②<御坂工区>東八代郡御坂町上黒駒字荒神原

調査期間 1992年 8月25日～9月17日

調査面積 ①約140㎡ ②約46㎡

担当者 保坂和博、松土一志



境川村内試掘調査 位置図

本調査は、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道建設に関わる試掘調査であり、今回の試掘範囲は境川村および御坂町内である。

調査方法は個々の調査予定地点（境川村・御坂町）において、それぞれの地形等の状況を勘案して調査坑を設定し、人力によりローム面あるいはローム面以下まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を精査した。

調査の結果、遺構・遺物が検出された範囲が2カ所確認された。一方は境川村内の周知の遺跡である大谷沢A遺跡、他方は御坂町内で確認された荒神原遺跡である。大谷沢A遺跡は遺物包含層（黒色土）があり多量の縄文土器片が出土し、遺構と考えられる落ち込みも検出された。

荒神原遺跡でもやはり少量ではあるが縄文土器片が出土し、遺構と考えられる落ち込みが検出された。

以上の試掘結果より、大谷沢A遺跡、荒神原遺跡における本調査の必要性があることが確認された。

なお今回の試掘調査の先立って行われた分布調査（踏査）により、境川村内においては中原遺跡が確認されており、今回の試掘調査結果と合わせ境川村内および御坂町内における本調査は合計3カ所が必要となった。



御坂町内試掘調査 位置図

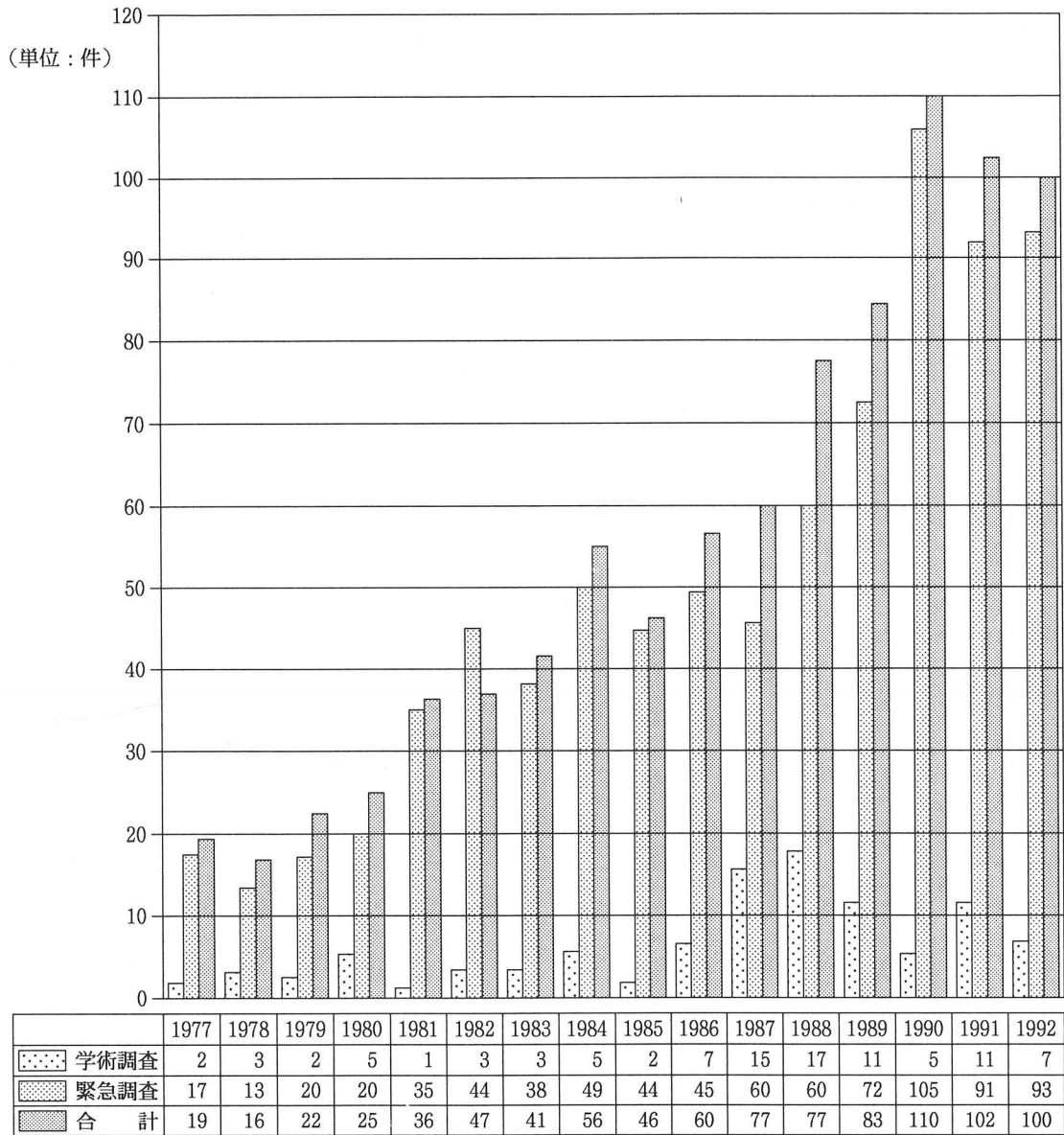
Ⅲ 県内の概況

1. 調査の件数と状況

グラフに示したように、今年度は県内で84件（3月末日）の調査が行われている。発掘調査件数は、若干減少した年度はあるものの、増加の一途をたどり、10年前に比較すると本年度はその1.8倍になった。昨年度は数件の減少を見せてはいるが、一時的な減少と思われる。反面、調査面積は増加しており、当埋蔵文化財センターが行ったものでも、「10年のあゆみ」

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

（3月末日現在）



の項に記載した表のように、年々増加している。県・市町村とも調査面積の増加に、専門職員の増員が追いつかないのは、とりもなおさず、1人当たりの調査面積が大きくなっていることであり、負担が重くなっている証左であろう。これが、近年発掘調査報告書の刊行が遅れている一原因にもなっていると考えられる。韭崎市、一宮町のように整理場所と整理作業員を年間通して確保するような手立てが欲しいものである。調査の原因を発掘通知にある項目別に見ていくと、市町村では道路4件、住宅地造成10件、区画整備1件、公園造成2件、学校2件、住宅6件、工場6件、その他の建物7件、農業関連12件、土砂採取1件、その他12件である。県では道路10件、住宅地造成5件、公園造成2件、その他2件である。市町村別に見ていくと、塩山市2件、都留市2件、大月市2件、韭崎市3件、春日居町2件、牧丘町2件、大和村1件、石和町1件、御坂町4件、一宮町9件、八代町1件、境川村4件、中道町8件、豊富村2件、敷島町2件、櫛形町4件、明野村3件、高根町4件、長坂町1件、大泉村3件、白州町2件、上野原町1件の合計64件であり、東八代郡と北巨摩郡に集中している傾向にある。

特に本年度の傾向として、住宅建設への対応が整いつつあるように思われる。個人住宅への対応は国庫補助か自前の調査費で当てるか市町村ごとに異なるが、いずれかの方法であっても、対応する体制が整いつつあることは望ましい方向である。

学術調査としては、甲府市の判平遺跡、塩山市の雲峰寺経塚があり、大泉村では谷戸城の範囲確認調査、櫛形町では遺跡の範囲確認調査を実施している。また遺跡の整備事業として、八代町岡の銚子塚古墳、三珠町の狐塚古墳が調査されている。また県は古代官衙・寺院の分布調査として3ヶ所の確認調査を実施した（遺跡調査発表会要旨、1993.3）。

埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）について見ると、県及び市町村で、1月18日現在で67名、考古博物館4名及び都留市（市史編纂室兼務）、富士吉田市、塩山市、韭崎市、春日居町、勝沼町、牧丘町、石和町、御坂町（教育委員会の他に1名）、八代町、中道町（境川村と共同設置）、豊富村、三珠町、櫛形町、甲西町、敷島町、竜王町、小淵沢町、大泉村、明野村、武川村、白州町、上野原町に各1名、大月市、一宮町、高根町（内1名は非常勤）、須玉町（内1名は非常勤）に各2名、甲府市に3名となっている（県学術文化課調べ）。1987年度には24名であった県内の専任職員数は、6年間で約3倍になったことになる。また、この10年間の開発事業に伴う発掘調査件数の平均は88%で学術調査はわずかに12%である。本年の調査主体者別では、県が24%、市町村が76%で、専門職員数の比率から見ると市町村の調査件数が高い傾向である。整理作業や遺物収蔵施設でも、市町村は整備されているところが少なく、今後改善を要する課題である。

1992年度発掘調査一覧表 No.1

番号	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	調査期間	遺跡の時代	面積(㎡)
1	山崎第4遺跡	北巨摩郡大泉村西井出地内	大泉村教育委員会	宅地造成	92/04/01～92/05/30	縄文	1,000
2	姥塚遺跡	東八代郡御坂町井之上941-1	御坂町教育委員会	本堂建設	92/04/01～92/04/30	縄文	216
3	城越遺跡	東八代郡中道町右左口字城越694-1	中道町教育委員会	工場建設	92/04/20～92/05/16	縄文・古墳・平安	1,156
4	朝日遺跡・無名墳	東八代郡中道町上曾根2828-18、2828-19	中道町教育委員会	駐車場造成	92/04/20～92/05/22	弥生・古墳	500
5	甲府城跡	甲府市丸の内1-5	山梨県教育委員会	公園造成	92/04/13～93/03/31	近世	7,000
6	車袖蔵遺跡	東八代郡一宮町末木517-1、-3	一宮町教育委員会	宅地造成	92/04/06～92/06/30	奈良・平安	2,200
7	雲峰寺経塚	塩山市上秋原2687-2	塩山市長	市史編纂	92/05/01～92/06/10	平安	30
8	豊田山平遺跡	東八代郡豊富村高部1436-1ほか	豊富村教育委員会	その他開発(範囲確認)	92/04/13～92/04/25	縄文・弥生・古墳	54
9	高田遺跡	甲府市千塚五丁目3077-1	山梨県教育委員会	宅地造成	92/04/20～93/03/31	縄文・平安	3,400
10	豊浦池遺跡	東八代郡中道町下向山字豊浦池3575ほか	山梨県教育委員会	宅地造成	92/04/13～93/03/31	旧石器・縄文・弥生・古墳	7,000
11	川又坂上遺跡	北巨摩郡高根町箕輪新町字御堂久保225-1ほか	山梨県教育委員会	宅地造成(米倉山ニュータウン)	92/04/13～92/09/30	縄文	4,000
12	甲ヶ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字大林8869-1ほか	山梨県教育委員会	道路	92/05/11～92/09/30	縄文	1,500
13	東山北遺跡	東八代郡中道町下向山1353ほか	山梨県教育委員会	公園造成	92/10/42～93/03/31	縄文	3,000
14	古林第1遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字古林8566-40	山梨県教育委員会	道路	92/05/06～92/08/31	弥生	2,400
15	二本柳遺跡	中巨摩郡若草町十日市場字二本柳186ほか	山梨県教育委員会	道路(甲西バイパス)	92/04/20～93/03/31	縄文	7,700
16	下新井C・D遺跡	中巨摩郡櫛形町桃園字大新居1068-1ほか	櫛形町教育委員会	道路	92/04/20～92/12/31	中世・近世	100
17	下新井D・E遺跡・八反田遺跡	中巨摩郡櫛形町桃園1429ほか	櫛形町教育委員会	その他開発	92/04/20～92/05/30	中世・近世	60
18	米倉山B遺跡	東八代郡中道町下向山字米倉山3911-6ほか	山梨県教育委員会	その他開発(米倉山ニュータウン)	92/05/20～92/06/30	中世・近世	7,000
19	新居道下遺跡	中巨摩郡若草町十日市場字新居道下1764ほか	山梨県教育委員会	道路建設(甲西バイパス)	92/04/13～92/09/30	旧石器・縄文・弥生・古墳	6,600
20	水口遺跡	東八代郡境川村藤笠字水口728ほか	山梨県教育委員会	道路	92/05/11～92/11/30	古墳・奈良・平安	2,800
21	雑木遺跡	北巨摩郡白州町字雑木6107ほか	白州町教育委員会	圃場整備	92/04/28～92/06/05	縄文・平安・近世	700
22	中川田遺跡	中巨摩郡甲西町田島字中川田527ほか	山梨県教育委員会	道路建設(甲西バイパス)	92/05/18～92/08/30	中世	2,200
23	神取I遺跡	北巨摩郡明野村下神取563ほか	明野村教育委員会	圃場整備	92/06/01～93/03/31	弥生・古墳・中世	4,000
24	神取II遺跡	北巨摩郡明野村下神取482-1	明野村教育委員会	圃場整備	92/06/01～93/03/31	縄文・平安	15,000
25	下成田遺跡	東八代郡御坂町成田2029-1ほか	御坂町教育委員会	その他建物(店舗及び駐車場)	92/05/25～92/05/29	古墳・奈良・平安	2,043
26	寺本庵寺遺跡	東山梨郡春日居町寺本字神東町244	春日居町教育委員会	住宅建築	92/05/28～92/07/31	奈良・平安	281
27	馬込遺跡	東八代郡一宮町南野呂宮ノ前661-1ほか	馬込遺跡発掘調査団	工場建設	92/07/27～92/10/31	平安	3,000
28	上野原遺跡	東八代郡中道町右左口字上ノ原797	中道町教育委員会	工場建設	92/06/15～92/07/18	縄文	500
29	熊久保遺跡	東八代郡中道町上向山字熊久保988-1ほか	中道町教育委員会	町立保育所建設	92/07/01～92/07/31	縄文・古墳	700
30	坂井南遺跡	斐摩郡藤井町北下条字大原2221ほか	斐摩郡教育委員会	道路建設	92/05/20～93/03/31	古墳	5,000
31	古御所東遺跡	北巨摩郡白州町字古御所2061ほか	白州町教育委員会	圃場整備	92/06/15～92/08/31	平安	5,000
32	一本松遺跡	北巨摩郡高根町村山西割地内	高根町教育委員会	圃場整備	92/06/23～93/03/31	縄文	2,000
33	大明神遺跡	北巨摩郡高根町村山東割地内	高根町教育委員会	圃場整備	92/06/23～93/03/31	縄文・平安	2,000
34	米田遺跡	北巨摩郡高根町村山北割地内	高根町教育委員会	圃場整備	92/06/23～93/03/31	縄文	10,000
35	宇賀屋敷遺跡	塩山市下於曾1021-3ほか	塩山市教育委員会	その他建物(児童館)	92/07/01～92/08/01	平安	400
36	古林第2遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8655-95ほか	大泉村教育委員会	農業関連	92/07/01～92/07/15	縄文	100
37	古林第4遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8466ほか	大泉村教育委員会	圃場整備	92/07/15～92/09/15	縄文	3,000

1992年度発掘調査一覽表 No.2

番号	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	調査期間	遺跡の時代	面積(㎡)
38	宮ノ前遺跡	非崎町藤井町野宮ノ前2219-1 ほか	非崎町教育委員会	宅地造成	92/06/25~93/03/31	平安	1,356
39	次郎構遺跡	北巨摩郡高根町下黒沢2805-1 ほか	高根町遺跡調査会	公園造成	92/07/20~93/03/31	縄文	10,000
40	向獄寺大方丈跡	塩山市上於尊2026	塩山市教育委員会	その他建物	92/07/01~92/08/01	中世・近世	600
41	東原遺跡	東八代郡中道町下向山宇東原4304	中道町教育委員会	土砂採取	92/08/10~92/09/10	弥生・古墳	400
42	権現原遺跡	大月市大月町真木権現原	大月市教育委員会	道路建設	92/08/10~92/09/18	縄文	1,822
43	龍岡原遺跡	北巨摩郡明野村上神取字龍岡原1557-1	明野村教育委員会	住宅建設	92/08/05~92/08/31	縄文	820
44	判平遺跡	甲府市黒平町下黒平字石堂94ほか	山梨学院大学考古学研究会	學術研究	92/08/30~92/09/15	縄文	100
45	金田遺跡	東八代郡一宮町金田字大石町27-1 ほか	一宮町教育委員会	住宅造成	92/09/07~92/09/30	弥生・平安・中世	800
46	田村遺跡	東八代郡一宮町石字田村7-2	一宮町教育委員会	倉庫建設	92/08/20~92/08/31	縄文	100
47	前蔵遺跡	都留市大幡3596-1 ほか	都留市教育委員会	工場建設	92/08/25~92/10/25	縄文・平安	873
48	新街区民衆村建設予定地内遺跡	北巨摩郡長坂町中丸字藤々580-1 ほか	新街区民衆村建設調査団	その他開発(保養施設建設)	92/07/01~92/12/28	縄文・平安	80,000
49	向河原遺跡	中巨摩郡甲西町江原字向河原727ほか	山梨県教育委員会	道路建設(甲西バイパス)	92/09/01~92/12/25	奈良・平安・中世・近世	4,000
50	中尾奈里遺跡	東八代郡一宮町北都塚470ほか	一宮町教育委員会	賃貸住宅建設	92/09/01~92/09/30	弥生・古墳・奈良・平安	2,187
51	油田遺跡	中巨摩郡甲西町田島字油田149-1 ほか	山梨県教育委員会	道路建設(甲西バイパス)	92/09/14~92/12/24	平安・中世・近世	2,200
52	大門遺跡群	北都留郡上野原町大綱39ほか	大門遺跡群発掘調査団	工場建設	92/09/16~95/03/31	縄文・平安	100,000
53	寺在家遺跡	東八代郡境川村藤空字室屋2488	境川村教育委員会	住宅建設	92/09/18~92/09/30	古墳	150
54	寺塚寺遺跡	東山梨郡春日居町寺本字神東町258	春日居町教育委員会	宅地造成	92/09/19~92/10/30	奈良・平安	50
55	孟塚古墳・鏡子原遺跡	東八代郡八代町丘2195ほか	八代町教育委員会	遺跡整備	92/09/14~92/12/25	旧石器・縄文・古墳・中世	45
56	東福A・D遺跡、下新井A・F遺跡	中巨摩郡榑形町桃畑の57ほか	榑形町教育委員会	道路建設	92/09/16~92/09/30	中世・近世	120
57	高部宇山平遺跡	東八代郡豊富村高部1563-1 ほか	豊富村教育委員会	その他開発(範囲確認)	92/10/01~92/11/30	縄文・弥生・古墳	520
58	揚久保遺跡	都留市小形字大原ほか	山梨県教育委員会	その他開発	92/09/21~92/10/31	縄文・平安	16,000
59	飯米場遺跡	非崎市建設町宮久保6113ほか	非崎市遺跡調査会	学校建設	92/08/24~93/03/31	縄文	3,000
60	中尾奈里遺跡	東八代郡一宮町北都塚字龜沢295-1	一宮町教育委員会	敷地造成	92/10/06~92/11/10	古墳・奈良・平安	1,091
61	瓢訪前南遺跡	東八代郡中道町上向山字瓢訪前1289ほか	中道町教育委員会	工場建設	92/10/26~92/11/30	縄文・古墳	1,500
62	温湯遺跡	東八代郡境川村天窪字温湯693ほか	山梨県教育委員会	學術研究	92/11/04~92/11/10	平安	20
63	ユ伽寺	東八代郡八代町永井1544-1	山梨県教育委員会	學術研究	92/11/11~92/11/18	平安	20
64	七日子庵寺	山梨市七日市場1043-2	山梨県教育委員会	學術研究	92/11/19~92/11/27	奈良・平安	20
65	油田遺跡	中巨摩郡甲西町江原字中河原868-1 ほか	山梨県教育委員会	道路建設(甲西バイパス)	92/10/13~92/12/25	古墳・奈良・平安・中世	1,400
66	二の宮遺跡	北巨摩郡御坂町二之宮1530	御坂町教育委員会	その他開発(範囲確認)	92/10/20~92/10/30	古墳・奈良・平安	1,139
67	唐松遺跡	東八代郡双葉町字津谷488	山梨県教育委員会	住宅建設	92/11/01~92/12/25	縄文	2,000
68	大新田1号墳	東八代郡一宮町塩田字大新田1497	一宮町教育委員会	土地改良(天地返し・改植)	92/10/26~92/12/28	古墳	500
69	古道上遺跡	東山梨郡大和村野平104ほか	牧丘町教育委員会	宅地造成	92/10/21~92/11/30	縄文・平安	366
70	下久保員田遺跡(隣接地)	東山梨郡大和村野平179-1 ほか	大和村教育委員会	宅地造成	92/10/01~93/05/31	縄文	8,160
71	桑戸遺跡	東山梨郡境川村大坪字獅子平179-1 ほか	境川村教育委員会	宅地造成	92/12/01~93/01/15	奈良・平安	1,500
72	寺内遺跡	東山梨郡春日居町桑戸字五反多661-1 ほか	山梨県教育委員会	道路拡幅	92/12/01~92/12/14	古墳	500
73	寺内2遺跡	大月市七保町下和田1738ほか	大月市遺跡調査会	住宅建設	92/12/15~93/01/20	縄文	1,666
74	北大内遺跡	東八代郡一宮町東原830-1 ほか	一宮町教育委員会	農業関連(農道改良)	92/11/24~93/02/28	奈良・平安	650
75	松原遺跡	東八代郡一宮町東原730ほか	一宮町教育委員会	農業関連(農道改良)	92/11/24~93/02/28	古墳・奈良・平安	750

1992年度発掘調査一覧表 No.3

番号	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	調査期間	遺跡の時代	面積(㎡)
76	竊在家遺跡	東八代郡境川村藤袋字屋2594-1	境川村教育委員会	個人住宅建設	92/12/14~92/12/18	古墳	150
77	立石遺跡	東八代郡中道町上向山852-1	中道町教育委員会	道路	92/12/15~93/01/20	縄文・弥生・古墳	633
78	往還東A~C遺跡	中巨摩郡榑形町桃祖の430ほか	榑形町教育委員会	その他開発(大規模店舗出店)	92/12/10~93/01/31	弥生・中世・近世	200
79	天神遺跡C区	北巨摩郡大泉村西井出3047-1	大泉村教育委員会	その他開発(グラウンド造成)	92/12/01~92/12/10	縄文	100
80	谷戸成跡	北巨摩郡大泉村谷戸2755-1ほか	大泉村教育委員会	学術研究	92/12/07~91/12/25	中世	50
81	金山遺跡	東八代郡境川村小黒坂字間の多639-1	境川村教育委員会	宅地造成	92/12/21~93/01/22	縄文	700
82	梅ノ木遺跡	塩山市上於曾1307	塩山市遺跡調査会	学校建設	92/12/17~93/02/28	平安	972
83	国府関連遺跡	東山梨郡春日居町熊野堂155ほか	春日居町教育委員会	学術研究	92/12/14~93/03/31	奈良・平安	200
84	音羽町遺跡	甲府市音羽町307-1ほか	山梨県教育委員会	住宅建設	92/12/07~93/01/30	弥生・古墳	850
85	宮の上遺跡	東八代郡石和町上平井字宮ノ上462-2ほか	石和町教育委員会	住宅建設	92/10/15~92/12/25	奈良・平安	150
86	鳥居原孤塚古墳	西八代郡三珠町大塚字鳥居原3958ほか	三珠町教育委員会	遺跡整備	93/01/11~93/01/14	古墳	1,400
87	中谷遺跡	都留市小形山榑木2335-1ほか	山梨県教育委員会	その他開発(リニア関連範囲確認)	92/12/17~92/12/25	縄文	7,000
88	柿平A~C遺跡、一の出遺跡、他	中巨摩郡榑形町小笠原988ほか	榑形町教育委員会	区画整理	93/01/10~93/03/31	弥生・古墳・奈良・平安・中世	900
89	後畑遺跡	東八代郡御坂町二之宮2564	御坂町教育委員会	その他開発(試掘調査)	93/01/25~93/01/29	古墳・奈良・平安	1,008
90	榑原B遺跡(近隣地)	東八代郡御坂町上黒駒1108-1ほか	御坂町教育委員会	集合住宅建設	93/02/01~93/02/05	縄文	1,761
91	冷田遺跡	中巨摩郡教島町中下条字冷田1869-1	教島町教育委員会	宅地造成	93/02/05~93/02/26	奈良・平安	250
92	中溝遺跡	都留市大原字大原13-1ほか	都留市教育委員会	道路建設	93/02/22~93/03/31	縄文	2,390
93	岡村上遺跡	東八代郡八代町岡217	八代町教育委員会	宅地造成	93/02/10~93/02/19	縄文・古墳・平安・中世・近世	130
94	上野原遺跡	東八代郡中道町右左口字立石828-1	中道町教育委員会	住宅建設	93/02/12~93/02/26	縄文・古墳	150
95	於曾屋敷	塩山市下於曾字元旗坂529-1	塩山市教育委員会	住宅建設	93/02/01~93/03/31	中世	86
96	中尾桑里	東八代郡一宮町上矢作北宮海道640-1	一宮町教育委員会	その他の開発(共同住宅)	93/03/01~93/03/05	古墳・奈良・平安	130
97	向田遺跡	東八代郡御坂町大野寺1042	御坂町教育委員会	その他の開発(駐車場)	93/03/01~93/03/05	不明	202
98	はたおり塚古墳	東山梨郡春日居町鎮目地内	春日居町教育委員会	その他開発(集会所建設)	93/03/08~93/03/31	古墳	40
99	柳新居遺跡	北巨摩郡長坂町大八田1840、1841番地	長坂町教育委員会	河川開発	92/12/09~92/12/27	縄文	360
100	柳新居遺跡	北巨摩郡長坂町大八田字窪田1827ほか	長坂町教育委員会	農業関連(県営圃場整備事業)	92/12/02~92/12/30	縄文・古墳・奈良	1,000

年 報 9

印刷日 平成5年3月25日

発行日 平成5年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923

TEL 0552-66-3881

印刷所 ㈱峡南堂印刷所

甲府市丸の内1-10-1

TEL 0552-35-2528

